新眞婦人

新年號

第九號

大正二年四月二十六日第三種郵便物認可　大正三年一月一日發行（毎月一回一日發行）大正二年十二月二十八日印刷納本

看護婦見習生募集

年齢十八歳以上
學力尋常小學卒業以上
品行方正ニシテ傳染病ヲ有セザル女子ニ限ル

院長診察 月、水、木、金、午前
入院診後應需
林、峰間、兩副長ハ目下當院ニ在勤

電話（本）八八八八（病院用）八九八八（自宅用）

東洋内科醫院

東京神田駿河臺鈴木町二御茶水橋南

院長 醫學士高田畊安

相州高座郡茅ケ崎町海濱從停車場半里

電話ちがさき二番

南湖院

河野、高橋、兩副長ハ目下當院ニ在勤
院長診察土曜日午後。入院、診後應需

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

謹賀

大正三年新春

客年中ハ毎々御用命賜ハリ有難奉萬謝候尚本年モ不相變御引立御用命之程偏ニ奉希上候　敬白

一月元旦

(清)

東京市京橋區金六町角

鷲塚高等簞笥店

電話京橋　五百七十一番　三千四百五十五番

振替東京　一九三七〇番

三階・二階・階下

大陳列場

向島第一工場

府下向島隅田村一三六九

電話本所　五百二十六番

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

恭賀新年

東京市下谷區二長町壹番地

凸版印刷株式會社

電話 下谷長二〇二六番
　　 下谷一七〇七番
　　 下谷四〇一九番

振替貯金口座東京一八二八九番

東京市本所區番場町四番地

仝本所分工場

電話 本所二四四番
　　 本所・二四五番
　　 本所二八〇五番

振替貯金口座東京一九〇〇五番

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

◉實用的日常の寶典◉大奥開秘の鍵

佐藤仁之助先生著

最新刊

女子書簡文講話

菊版三百八十頁
總クローズ美本
定價金壹圓貳拾錢
送料八錢

各地高等女學校より參考書として最良なりとの贊辭を受け、且つ女學生諸孃の注文陸續として來る!!!

僅か一二行の短信にても意の達せるはゆかし、折々に認むる書簡の一身上に及ぼす利害の極めて深きを思はゞよく心せざるべからず從來の女子書簡文指南の多くは習字用を專とし文例の粗略を顧みず、恰好の良書なかりしが著者は多年苦心の後本書を作すに發端より說き作法、書式、語釋の三大篇に分ち贈答、訓戒、卽用の篇にあらゆる日常の文例を掲げ題每に細密の注意事項を叙述し書簡の禮式を敎へ敬語、遜語、接續語の使用を詳述す、是を座右に備へなば載する所の數百節悉く活用し得べく、新舊何れにも偏せず最も時代に適應する優麗達意の文を得ん、年末年首の贈答品として最も氣のきゝたる適切の最良品なり購ふて卽刻用立つは只本書あるのみ也

◉大阪每日新聞記者 齋藤溪舟先生著 結城素明畫伯裝幀

女官物語

好評 五版

四六版上製美本
紙數二百六十頁
高級女官肖像入
定價七拾錢 送料八錢

▲大阪朝日新聞批評 大奥の事は極秘のものにて女官職員錄に載らぬにても知るべし此書は一向窺ひ知るべからざる所なり、女官の姓名だに筆にてうるはしく記して大奥の大略及び女官たる人の美德を掲げたるは此の間の消息を知らんとするものゝ爲めに好き栞なるべし

▲各地小賣店に品切の節は直接弊店へ御申越被成下候はゞ送本可致候

發兌 東京市本郷一丁目大通 電話下谷四三六二 振替東京一二五五八 日東堂

西川文子新著（一月中旬發行）

婦人新道德論

四六判約三百頁
布製函入頗美本
定價金壹圓
送費金八錢

▲折りにふれての感想は、『新眞婦人』に掲載して居りますが、まだ私の考を纏めて充分に書いたことがありませぬので、今度此の書を著しました（序文の一節）

▲要目　第一章　婦人の自覺（イ）歷史上の婦人（ロ）婦人の自覺（ハ）社會の變遷と女性）△第二章性慾問題（イ）性慾に關する思想の變遷（ロ）性的敎育論）△第三章男女交際論（イ）男女交際の歷史（ロ）男女交際の利害論）△第四章結婚論（イ）結婚に關する思想の變遷（ロ）戀愛道德論（ハ）晚婚論）△第五章夫婦論（イ）家庭の不和（ロ）理想的の夫婦）△第六章親子論（イ）母たるの幸福（ロ）母の力（ハ）小供に關する智識）△第七章婦人と社會（イ）婦人と賣淫社會（ロ）婦人と社會改善（ハ）賣淫婦を論ず）△第八章不品行亡國論（イ）オリブ・シュライネルの論（ロ）日本歷史上の事實）

發行所　中央書院
東京市本郷區元町二の三十
振替口座東京一五七八〇

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

■新春の絶好讀物

□歌集 悲しき愛 三版 富田砕花著 定價金七拾五錢 郵稅金八錢

□歌集 さすらひ 再版 尾山篤二郎著 定價金七拾五錢 郵稅金八錢

■新刊四書■

□岩野泡鳴著 正宗得三郎畫 炭屋の船 盛花堂發行 文藝叢書第二 定價金四拾錢 郵稅金六錢

□高須梅溪著 竹久夢二裝幀 落合芳麿口繪 近松の人々 四六判三百餘頁裝幀頗る美 定價金六拾五錢 郵稅金八錢

□竹久夢二著 夢二エデポン 菊判大形美裝 本文二百餘頁 定價金七拾錢 郵稅金八錢

□小川未明著 戸張孤雁裝幀 津田青帆裝幀 夜の街にて 菊半截頗美裝 本文八百餘頁 定價金九拾錢 郵稅金八錢

大正三年一月元旦發行

□歌集 ふるへる花 再版 原田琴子著 定價金六拾錢 郵稅金六錢

□散文詩集 二十七篇 習作 三版 福永挽歌著 定價金四拾錢 郵稅金四錢

東京淺草 下平右衛門町 岡村書店 電話下谷四二〇四番 振替東京一九〇六五番

新眞婦人第九號目次

口繪　富士山
小さき聲にも　記者
夫婦論　西川文子
逆境に立つた時の夫婦　吉川たみ子
妻君孝行論　九里原繁
瀧口入道より尼横笛へ　高安月郊
横笛より瀧口入道へ　日向きむ
圓に見立てゝ家庭を論ず　岸邊福雄
男女兩性相異論　オリブシユライネル女史著　高野重三譯
自然と小供　露子
ナポレオンの女性觀　長瀬鳳輔
廓清會の藝妓論を聞く　みち子
女人國記（三）長州の女　西川光次郎

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

古い女　中里介山
春（小說）　小口みち子
男子問題　奈良林院長
雨の日　座古愛子
一瞥　記者
趣味の女　玉露女
暗い室内より　三野村きよ
思ひ出の記（一）氣おくれ　西川文子
御婚禮の御化粧　遠藤はつ子
東西南北（在彼南、伊藤美壽代女史より――朝鮮平壤高橋直嚴氏より――島林おぐり女史より――井上すみ子女史より――瀬沼夏葉女史より）
新刊紹介（新思想論――落栗――山中鹿之助――エルジエ・リントネル――人物研究）
募集文藝（和歌――俳句）

一月一日發行

柳川春葉先生作

鰭崎英朋氏彩畫
杉浦非水氏裝釘

生さぬなか

續生さぬなか

空前の大家庭小說

上卷中卷
下卷後編
全四册
四十版
小說界空前の美本一册
金九十五錢宛
小包八錢

● 上卷新刊 ●
木版極彩色二葉及コロタイプ版四葉挿入裝釘美麗箱入
九拾五錢
小包八錢

奇を逐ひ新に趨りて、やゝもすれば道義に戻らんとする社會に向つて大なる警告を與へたるは小說「生さぬなか」也。一躍世界の列强と伍したる新興國が天下の疑問として注目さるゝ國民性の眞髓を遺憾なく示したるものは小說「生さぬなか」也。源氏物語、八犬傳、金色夜叉、彼の大作と相並んで構想の妙文章の美日本文學の誇りとすべきものは小說「生さぬなか」也。輕跳浮華なる戀愛を排して、父子の情、同胞の情、朋友の情を捉へ、しかも興味津々たる修身書として健全なる家庭に缺くべからざる物は小說「生さぬなか」也。小說「生さぬなか」は既刊四册を以て一段落を告げたりと雖も、編中の人物が一代の波瀾は必ずしもこゝに盡きずして、各人が處世の轉變或はこれより數奇を加へんとす。彼の俊策や、眞砂子や、滋や、球江や、日下部や、一離一合の運命が愈出でゝ、愈奇なるを寫して正編「生さぬなか」以外別に新しき小天地を創造せんとするものは「續生さぬなか」也

柳川春葉先生作

清方英朋二氏彩畫

◉女一代（二册）各金壹圓 小包各八錢
◉花賣女（一册）壹圓二十錢 小包八錢
◉母（二册）各九拾五錢 小包各八錢
◉冨と愛（一册）金壹圓 小包八錢

菊池幽芳先生作

鏑木清方氏彩畫

◉百合子（三册）前編壹圓十錢 中編壹圓 後編壹圓十錢
◉百合子畫集（二册）各壹圓廿錢 小包各八錢
◉秘中の秘（二册）各九拾五錢 小包各八錢
◉月魄（二册）各金壹圓 小包各八錢

東京市麴町區平河町五丁目五番地
發兌元 金尾文淵堂
（電話番町二〇三九番）
（振替東京三八一七番）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

■佛蘭西大革命の魂となり合衆國獨立戰爭の火花となりたる偉大の書■

三浦關造先生譯
三上知治氏意匠
無二の美本

ルッソーが世界的不滅の大著

人生教育 エミール

附ルッソー評傳

定價 金壹圓六十錢
小包料拾二錢

名著エミールの名誰か之を知らざらん世の大方の人の子の父たり母たり教師たる人須く此理想の書生命の書を讀まざる可らず

菊判大册約五百頁
總かな附紙質精良
全一册
總クロース綴箱入
意匠高雅堅牢美本

是れルッソーが、矛盾にして背理、一に精神を沒却して形式主義に流れたる近代の教育の、遂に人の子を毒せずんば已まざらんとするを慨し、茲に『エミール』てふ一孤兒の教育に假託して自家の教育意見と其胸中の磊塊を吐ける者、其思想や驚くべく其精神や遠大也。而かも一孤時が幼時より成人するまでの實的教育の具體案なれば、叙述平明興趣津々、一篇の小説を讀むよりも奇に、殆ど人を魅し去らんとす。彼は又理想的女子教育意見を併述せんが爲めに『ソフィー』なる一婦人を捉へ來りて教育し、之をエミールに配して茲に理想の青年と女子とを創造したり。是れ實に子女教育の一大理想書にして、恐るべき本書の思想は觸る、所必ず火を發して其處に革命の波を擧げざる無し。我日本の家庭と學校と亦此書に依つて一大光明に浴するを得ん乎。

家庭も學校も必ず此書を備へざる可らず

東京市京橋區南鍋町一丁目
隆文館
振替東京八五三番

●子供の出來ない人に

婦人病を悩む人と病まれる夫の難義を救ふと私如きものが申しましたら定めしお疑ひの方も有りませうが此事に就きましては私は永らく實驗して居ります、當つて碎けると云ふ諺も有りますから一度は尋ねて御覧なさい若し御出になられぬ方は端書に御自分の宿所と其廣告を見た新聞の名とを明記して東京市下谷區北稲荷町廿六番地安孕散本舗横田友治として試みに申込で御覧なさい然すれば遠方の人でも婦人病の原因と治る事由と子供の出來なければならぬ譯を詳しく説明た册子を無料で御送り致します

森永の菓子

◎年末年始御進物用品

勅題社頭の杉　大中小　三種

スホンジメキスト　一號ヨリ六號マデ　六種

フレンチメキスト　一號ヨリ五號マデ　五種

アメリカンメキスト　大中小　三種

スヰートホーム　大中小　三種

リング　大小　二種

景品付罐入　ミルクキャラメル　ゼリビンズ　チヤイナマーブル　壹罐毎に趣味ある景品を付す

◎至る處の信用ある菓子店食料品店にあり

森永製に御注意を乞ふ

謹賀新禧

神田產婆看護婦會本部

神田助產所

東京神田區裏猿樂町六番地

電話本局　千五百三十七番

神田助產所は遠近を問はず往診、宅診。入所分娩の時は分娩迄、食費丈。分娩后は尤も輕便に特別、實費。理由ある方は施料

看護婦は遠近に拘らず迅速に御用命に應ず

西海湖より見たる富士山

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

早稲田大學教授 勝俣銓吉郎閲 河竹繁俊譯

新刊 カンディダ

洋裝全一冊
正價金六拾錢
郵税金四錢

シヨー傑作集（第三）

本作は空想的なるノラを脱化せる**實際的の新しき女カンディダ**を以て中心と爲し、之に配するに習俗的なる牧師の覺醒と不羈奔放なる年少詩人の戀愛とを以てせる悲喜劇なり。人の自覺に關して生じ、或は**夫婦相互の理解**なきより生ずる**近代的苦悶**の、巧に描寫せられて人情の機微を穿ち、思はず同感の涙を濺かしむるものあり譯筆の凡ならざる多言を要せず。劇文學、近代思潮、婦人問題の研究者、社會改良家、宗教家等の常に三讀すべきものなり

坪内博士譯 **ウォーレン夫人の職業**

坪内逍遙 市川又彦譯 **武器と人**

各全一冊 六十錢 郵税各四錢

發行所 東京牛込早稲田 振替東京一一二三番 **早稲田大學出版部**

賣捌 東京堂 至誠堂 北隆館 盛文館 其他

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

營業廣告

一定期 六ヶ月以上 六分五厘

一當座 日歩 壹錢壹厘

一特別當座 日歩 壹錢四厘

一貯蓄 年 五分貳厘八毛

日本橋區元濱町壹番地

尾張屋銀行

小石川支店 小石川區大門町

牛込支店 牛込區肴町

本郷支店 本郷區本郷三丁目

駒込支店 本郷區駒込淺嘉町

澁谷支店 府下澁谷町中澁谷

淀橋支店 府下淀橋町角筈

產科婦人科小兒科

鷲山改め 女醫 吉岡彌生

院長診察 宅診午前 往診午後

醫員診察 午後

產室及病室の設けあり隨時入院の需めに應ず

東京麴町區飯田町四丁目卅一番地

東京至誠病院

(電話番町二二五七番)

毛のはへる法とは何？

發毛機の發明と無料貸與は今です

((理由))

見よ。見よ。

此の男子の毛髪の濃厚なる緑黒なるを。人格は髪なり

かくの如き美髪となさんにはいかになすべき哉 ▲東京京橋區入船町一ノ一 東京器械療法研究所へハガキにて照會して御覽發毛器械療法書を無料で送ります ▲毛髪不足、毛のぬけろ。眉毛はへぎわ禿頭できもの火傷又ある處になき人は

見よ 見よ

此の婦人のはへ際の具合よさ。ふさ〱として毛多き事。美人は髪なり。

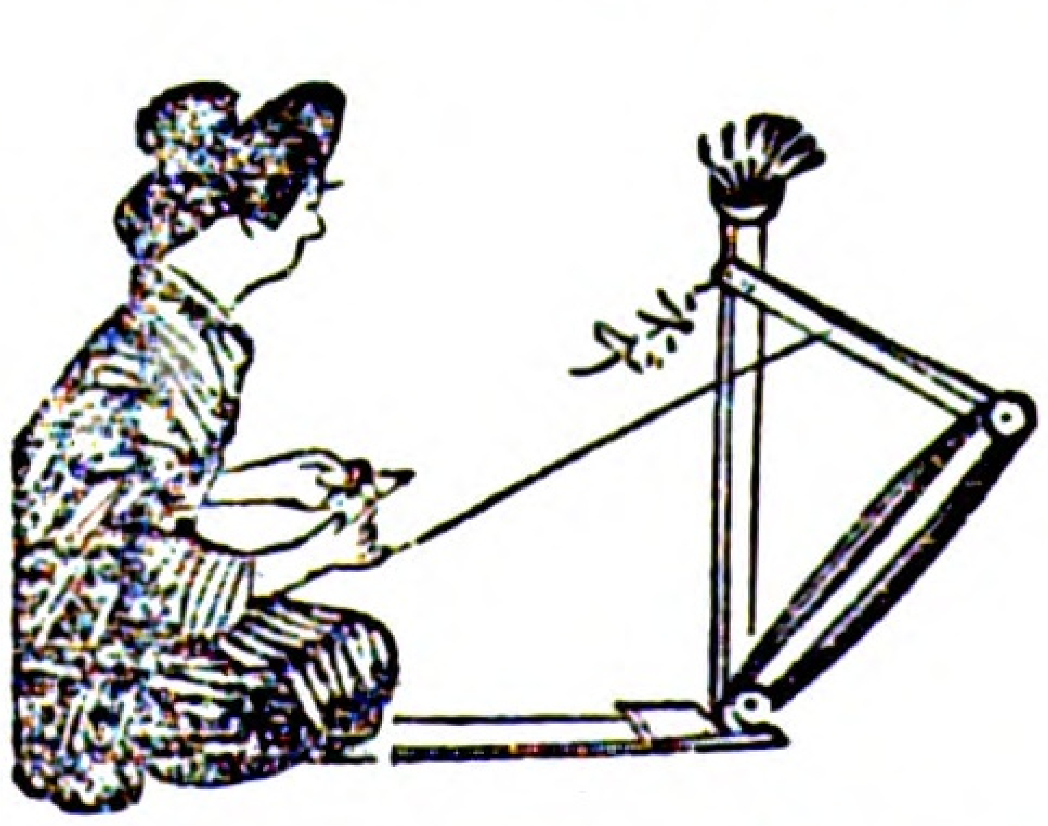
◎御婦人方の新福音

特許 竹中式

絲掛附絎臺

使用法

右絲掛附絎臺は下圖の如く下部にある二個の糸掛車を糸の輪の長短に依りて「ネジ」鋲を以て自由に「シメ」糸口を中央にある輪に通して糸巻に巻く時は二個の糸掛車は自由に廻轉して他人のお手を煩はさず糸の亂れるが如き心配なく單獨にて容易に糸巻に巻くことを得て輕便此上もありません是非御使用を願ひます



定價

本朱塗製 金七拾錢（美麗箱入）
御誂黒塗製 金六拾錢（同）
特製 金參拾錢（同）
上製 金貳拾五錢（同）
並製 金貳拾錢（同）

○市内は壹本にても御一報次第無料配達可仕地方は金拾貳錢申受候

製造發賣元 東京市青山 竹中商店
電話芝二千八百八十四番
振替口座東京三二二三番

◉特約販賣お望の方は至急御來談あれ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

◉近來粗惡なる類似品を製作販賣するもの有之候間よく／＼共盛社に御注意あれ

最近新式
陶玉萬年筆
人造水晶筆

定價

	壹本	壹打
特別甲號箱入	金貳拾錢	金貳圓
特別乙號箱入	金拾錢	金壹圓
普通	金五錢	金五拾錢

抑も此筆は理學的最新發明品にして學理の應用實地研究の結果製造したる便利と經濟とを兼備する新發明品なり

一此筆は和洋紙を問はず簿記又は細字圖引等には使用輕便自由自在にして從來使用し來れる（ペン）先烏口等の遠く及ばざる所なり

一此筆は使用後洗容易なるが故に壹本の筆にて諸色インキ墨等を取換使用し得る便利を有す

一此筆は金屬質と異なり如何なる（インキ）墨を用ゆるとも筆先の腐蝕及磨滅する恐更になし以上の特色を有するが故に發賣以來非常の好評を博しつゝあり江湖の諸君是非御試用御用命賜はらん事を

發賣元
東京市淺草區駒形町四十三番地
合資會社 共盛社營業部
電話下谷六千十九番
振替口座東京七二四三番

◉取次販賣又は行商望の方は本社又は特約販賣店に申込あれ
◉本社へ照會は（往復はがき）に限る

太平生命保險株式會社

東京市麴町區內幸町一丁目三番地
電話新橋長二一〇〇、二一〇一番
振替貯金口座東京一八、九〇〇番

社長 中村靜嘉
專務取締役 楠秀太郎
取締役 村井貞之助
取締役 內野五郎三
取締役 前川善平
取締役 倉知誠夫

取締役 左右田棟一
取締役 舟木錬太郎
監査役 潮田方藏
監査役 左右田信二郎
監査役 中田敬義

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

應招案内

御家庭に於ける御一族の御集會、御宴席の餘興、工場慰安會其他各種講演會等に利用せらるゝ娛樂機關は其の趣味と實益とを兼備し且通俗教育普及上簡易にして適切なるの點に於て活動寫眞の右に出づるもの無之と奉存候弊社は今般業務刷新の一端として左の如き便法の下に最も清新優良なる内外の寫眞を撰拔して大方の御招聘に應じ可申候間何卒續々御用命あらんことを希上候

特種　壹夜映寫料　金貳拾五圓以上
甲種　同　金貳拾圓
乙種　同　金拾五圓

但三日間以上連續御招聘の場合は特に割引の御相談可申上候

注意

一、寫眞數　喜劇、悲劇、風俗、滑稽、奇術、歷史、地理、軍事、衛生、宗教等拾二種（全長八千呎内外、一夜三時間映寫し得）
　但し御開會の二三日前寫眞目錄に簡單なる筋書を添へ御送り可申上候
二、出張員　辯士壹名、技師壹名（若くば貳名）荷物運搬夫壹名
三、藥品　電氣の御設備なき場所は弊社より酸素瓦斯發生器壹式携帶可仕之れに要する各種藥品は弊社にて負擔可仕候又電氣は百ボールド
　三十アンペア（直流、交流何れにても宜敷候）を要し申候此の場合はカーボンを弊社より携帶仕候
四、運搬費　器械其他附屬品の運搬費は市内は全部弊社にて負擔仕候得共市外は實費を申受候

東京市日本橋區檜物町廿六番地
日本活動寫眞株式會社營業部

電話本局　特長　三四九二、四六五〇、二八七九、五二一五、
　長　四六五一、三五四四、五二一四
販賣貸附係專用

ロハで東京見物

地方から出て來た觀光客二人、如何にも物珍しそうに銀座通りを見まわしながら話して行く——

甲「吾等抔は心掛が違ふ！

乙「なぜ？

甲「なぜつて、今度東京見物に來るだつて、金がイラれエ」

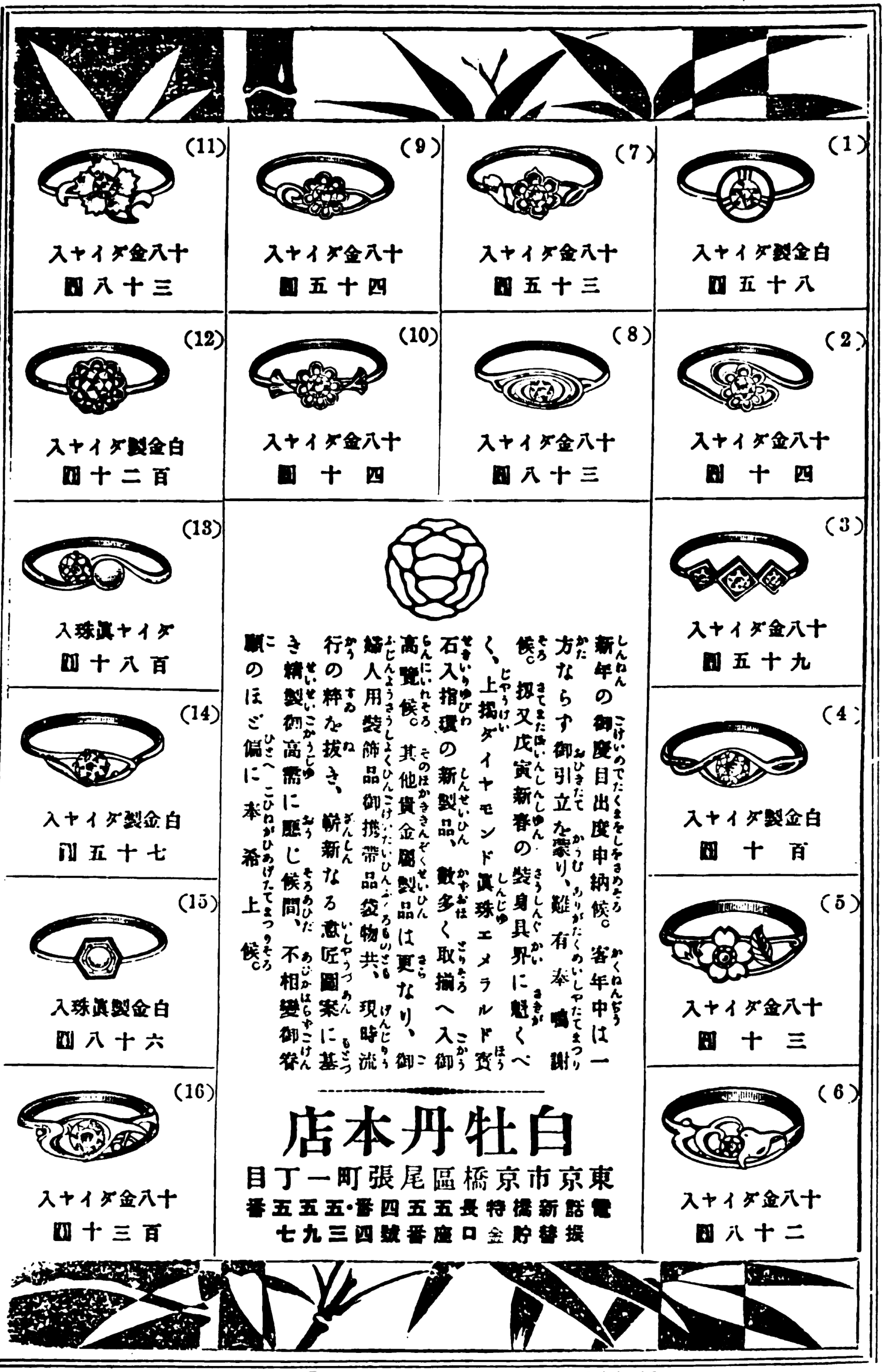
乙「金がイラれエとは變だね」

甲「ナーニ保險金を取つたからよ、有隣生命には『祝壽養老』といつて割増金付の保險がある。ソノ割増金で東京見物に來た譯だ、どうだな心掛は」

乙「ウム、それは甘い事をした、どうれ己も一つ保險を附けて行くべイ、ソシテその會社はドコだな？

甲「日本橋の南茅場町さ」

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

新眞婦人第九號

小さき聲にも

昨年五月に本誌第一號を發行したのですが、幸に既に第八號まで發行して、第九號を新年號として發行し得る樣な次第となりました。此の間思ふことの萬分の一も、實行が出來ませんでしたが、併し私共八ヶ月の努力は又全く無用ではありませんでした。私共は第一に『男子の不品行』と云ふ問題を論じましたが、之れが動機になつて、諸雜誌で永々と此の問題が論ぜらるゝに至りました。第二に男女交際論を提出したが、之れに對しても、反響があつた。又第三には人の妻たる人々も、家庭の仕事に盡す餘力の有る限りは家庭外の仕事にも手を出し、社會改善の爲めにも力を盡さればならぬと論じましたが、之れにも大分反響がありました。其他公の席へ藝者を出すなと云ふのも私共が初めて聲を擧げたのです斯く私共の小さき聲にも反響のあると云ふことは日本の社會のまだ生きてる證據です。此の證據のある以上私共の努力は決して無用ではありません。新らしき年に於ては一層の勇氣を出して奮鬪したいと思ふて居ます。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

夫婦論

西川文子

夫婦論と云ふ題で、少し自分の考を述べて見たいのであるが、先づ

結婚の歴史

から述べて、ボツ〳〵本論へ這入りましやう。さて人類最初の結婚の形式は、一夫一婦であつた。尤も一夫一婦と云つても、今日の一夫一婦制ほど固いものではなかつたが、遊獵時代の男子にとりては、數婦を娶ると云ふことは實際困難であつたので、自然一夫一婦に近いものが行はるゝに至つたものと見へる。

所が遊獵の時代が過ぎて、土地を耕す樣になつてからは、妻を多數に持つと云ふことは、經濟上必要なことになつて來た。多妻多子なることは、未開地の多い時代には、其の一家を富裕ならしむる唯一の方法であつたのである。又種族間の戰爭が激しくなるに從ひ、兵卒の必要が日に日に増すので、自然多妻が愈々必要になつて來たのである。

けれども戰爭の結果、部族と部族との間に平和條約が結ばれたり、或は又一の部族が他の部族を併呑したりして、ダン〳〵戰爭が少なくなるに從ひ、多妻の必要が減じて來た、又社會が進歩するに從ひ、耕作に機械が應用されたり、或は家畜が使用されたりして來たので、自然耕作に人の手を要することが少なくなつて來て、此の點からも多妻の必要が減退して來た。其の上に、多妻では、幾腹もの小供を一緒に育てねばならぬが、ソレでは敎育上困ると云ふことからも、一夫一婦と云ふことが勢力を占めて來た。

今日、不品行をして平氣な紳士、性慾の上から見て

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

は原始的な男子でも、流石に小供の敎育と云ふ上からのみは、自分の不品行を惡いと考へ、不品行な紳士に限り、大抵其の小供は人に托して敎育して居る。之れから見ても、「小供の敎育には困る」と云ふことが、多妻主義を排斥するに力ある原因の一つと成り來つたものであることが分る。

モウ一つ文明の結果、婦人が其の美と健康を永く保つことを得るに至つたことなぞも、一夫一婦の行はるゝに至つた、原因であると考へる。

殘されたる問題

斯く變遷して來て、今や嚴格な一夫一婦主義が人類の理想となつて來て居るが、モウ之れで行き止まりかと云ふと、まだ〳〵殘されたる問題があると思ふ。

一夫多妻の時代には、氣に入らなければ又他の妻を迎へることが出來たのであるから、別にソウ深く妻を選ぶことに苦心せなくてもよかつたかも知れぬが、一夫一婦を嚴格に守ると云ふことになつて來ると、自然男も女も結婚に際して、深く考へねばならぬことになつて來る。ソコで結婚前の交際だの、男女交際だのを喧ましく云ふに至つた次第であるが、中には交際した丈けでは分らぬから、一應善からうと思ふたら、假りに結婚して見る。而して惡かつたら仕直す、ホントに適當な相手の見付かるまで仕直す、ソレがよいとまで主張するものがあるに至つた。初めて此の事を主張したのは千九百〇六年に、「家族」と云ふ名著を出版したパーソン夫人である。

併しソンナことを言ひ出した日には、限りがないと思ふ。一人の男に如何なる點でも滿足を與ふる一人の女が世に有り得る筈なく、又一人の女に如何なる點でも滿足を與ふる一人の男が、世に有り得る筈がないから、假試的結婚と云ふことは駄目である。私はソレよりは結婚前に撰擇に注意をせなくてはならぬのは無論であるが、結婚後に於ては、何事があつてもお互に辛抱するのが極めて大切であると考へる。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

夫婦間意見の相異

お互に辛抱が大切であると云つても、私は之れまでの舊い男の樣に、幾分にても女に默從を强いんとするのに贊成しない。私の辛抱が必要であると云ふのは、人間の慾に限りがないと云ふ意味からであつて、辛抱と云ふ中出來る丈け夫婦の間に無理のない樣にしたいと云ふのが私の望みである。即ち私は世の凡ての夫たる人々に、妻に意見の獨立を許す程に雅量があつて欲しいと思ふのである。聞く所によると、露西亞の敎育ある男女の間では、夫婦の間に於ても討論が許され、夫婦で意見の一致しないことがあつても、夫は決して妻を壓制しないと云ふことである。私は日本の男子にも之れ位の雅量があつて欲しいと思ふのである。夫に斯くの如きの雅量があれば、ソレが妻をドレ丈け活々した婦人と爲さしめるか知れぬ。今日日本の家庭の婦人に死人の如きもの丶多いのは、夫たる人々に、雅量のないと云ふ事が、一大原因であらうと考へる。

妻たる人々に夫に疑はる丶樣な行爲があると雅量ある夫をも雅量なきものたらしむる樣な場合があるから夫の雅量を望む妻たる方々は、夫の信任を日に〳〵大ならしむる樣努めねばならぬ。夫の雅量に對して、妻は信任の報酬を拂はねばならぬ。夫婦の間に雅量と信任とがあれば、其の夫婦は萬歲である。

夫の友たり得る妻

夫たる人々には、妻に對して雅量あることを要求したが、妻たる方々には、夫の友たり得る力の養成の心掛けを要求せざるを得ぬ。『私何んにも知りませぬの』で、妻たる道が盡せる時代は既に過ぎ去て居る。聞く所によると、佛蘭西には七百七十二萬八千八百五十四人の既婚婦人があつて、其の中二百六十八萬五千七百九十六人の婦人は、妻たり母たると同時に何にか他に職業を持て居るとのことである。中には夫よりも餘計に收入のあるものも、隨分あると云ふことである。ソレで居て其の夫たる人が、何等の不便不都合を感せざ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

るのみならず、廣く社會的に見る場合には、妻たる方々までが、斯く職業にも勉强して居ると云ふことは、普ねく佛蘭西の男子に敵對の心を起さしめて、大に男子を刺激して居ると云ふことである。のみならず佛蘭西の婦人は何所までも男子を支配して居る。佛蘭西の男子は誰よりも其の妻君の感化を受けて居る、佛蘭西の婦人は間接に政治上にも非常に勢力があつて、農民の妻でさへも、自分の夫に、何々に投票せよなどゝスゝメて居ると云ふことである。

早く日本の妻君達も、斯くなつて欲しい、婦人の選擧權獲得運動に先き立ち、日本の婦人が先づ佛蘭西の婦人の如くなることが大切である。

性的敎育

「私共は性的敎育を受けて、結婚に際しては、『美貌、財產、地位よりも、身體並に精神の健全を標準とすること』を學ばねばならぬ。夫婦となりて後は、『夫婦共に如何に心掛けても、其の生命の流の性質を變へることが出來ないが、併し酒を飮むとか其の外の毒で、其の生れる小供の身體を弱くすることの出來る樣に、其の心掛け次第で、生れる小供の精神並に身體を健全ならしむることが出來る』と云ふことを學びて夫婦間の亂淫を愼まねばならぬ、此の謹愼せねばならぬと云ふ責任は、元より夫婦兩方の責任なれども、男は兎角情交の快樂を貪らんとする傾き强ければ、妻たる方々は、性慾道德の維持者として、殊に其の責任あることを感せねばならぬ。

近頃は子を持つと云ふ思想のないものさへ增へて來たが、持てるものならば持ちて、其の爲めの苦勞は意とする所でないと云ふのが、人の至情であると云はざるを得ぬ。けれども子を持つと云ふ思想がある丈けでは、まだ充分であるとは云へぬ、更に一步を進めて質のよい子供を持ちたいと云ふことを考ふるに至らねばならぬ。茲まで考へが進まぬと、ホントニ品行方正の人であるとは云へない。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

結婚と家庭を呪ふ人

男子の婦人観は、其の母、其の妻、其の姉妹乃至は二三の異性の友で定まるものであるらしい。啻に無學者に於て然かるのみならず、如何に科學的に婦人を研究したる人の婦人觀と雖も、實は自分の妻や母から得た婦人觀を動かすには至つて居らぬ樣に見へる。

ソクラテスの如き聖人が『君は結婚しても、しないでもドチラにしても後悔する』と云ふ樣な言葉を遺してあるのは、如何にも不思議に思はるゝが、其の妻たりし婦人の性行を知るに及びては、ハヽア と頷かるゝであるから『女子と小人とは養ひ難し』と云つた孔子の妻の、如何なる婦人であつたかも、略ば想像せらるゝワケである。

されば其人如何に學者であつても、又聖人君子と云はるゝ人であつても、其人が妻難の人である以上は、其の人の口から結婚を呪ひ家庭を罵るの語が出ないとは限らぬ。私共は此の事を承知して居て、結婚や家庭を呪ふ奇言に動かされてはならぬ。

私共は、普通人の爲すべきことを爲し、又悦こびて更に其の奥を見ると云ふ。心持であらねばならぬと考へる。

夫婦論の題下に、まだ〳〵言はねばならぬことが多いが、大分長くなつたから、今回は之れ位にして置きます。

夫婦俳人

夫か俳諧に夢中なるを戒むる女房あれば、其熱心に感化せられて、己れも仲間入をする風雅女もありけり。夫婦愛情の外、別に閑雅のたしなみある、其間の味ひ未だ易く窺ひ知る可らざるものあらむ。記憶に浮べる古ひ夫婦俳人の名高きを擧れば左の如し。

光貞＝みつ女　栢莚＝翠扇女
惟中＝園女　蝶雨＝妻菜
嵐雪＝雪山女　鶴口＝鶴冠女（？）
凡兆＝とめ女　恒丸＝素月尼
淡々＝妾さき女　道彦＝戀々女
壺中＝妻菜　有終＝涙兮女
曲翠＝破鏡女　西馬＝乙年女（俳味より）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

逆境に立つた時の夫婦

吉川たみ子

世の中がいつも順風に帆あげて渡るやうなものならば、申分は御座いませんが、なか〱さうは行かず、憂き世の波瀾、人世の怒濤は何人の家庭をも遺憾なく見舞つて來て、昨日までは何一つ不自由と云ふ事を知らず、榮耀榮華に人世の春を樂んで居つた人が、一朝にして産を失ひ、今日は人のなさけに、すがつて日々の糊口をしのがねばならぬ、境遇に陷ることも、往々ある世の中ですが、此時に當り最、大切なるものは夫婦の堅き結合であります。夫婦間の愛情が物質の移動によつて變るやうな事なく互にあつき同情をもつて苦しき胸中を慰め合ひ、阻喪せる意氣を勵まし合ひ、堅忍不拔の心もて徐ろに回復の道を計畫せば自然と光明はさして來て開運の時節も到來するやうになるので御座います。世間には物質の有無によりて夫婦の情愛が左右せられ、甚しきはこれが離別の原因となる例が澤山あるでは御座いませんか、即ち無資無産の貧乏時代には、不自由を共にし、艱難のかづ〱を嘗めさせて置きながら、一朝己が時を得て富貴顯榮何事も意の如くなる位置に至るや、忽ち愛情を他に移し糟糠の妻をして、ひとり空閨に泣かしむる夫もあり、又その夫の位置資産あつて時めく時代には何の故障も起らざりし妻が、萬一事志と違ひ不運の境遇に立至り生計の道にも困むやうになれば忽ち瑟琴調はず偕老を契りし夫も弊履の如く打捨てゝ出てしまふ妻もあります。申までもなくこれらは精神によつて結び合ふた夫婦でなく物質によつて集り合ふた下劣な野合の夫婦で御座います。陳い語でも、家貧にして良妻をおもふの言葉、意義深しと思ひます。しかし私はこんな場合に於ては妻

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

が良妻たるばかりでなく、夫も一層良夫たれであつて欲しいのです、一體女子は男子に比べては感情の强い性をもつて居りまして喜怒哀樂の發するところも一層劇烈な傾きがありますから男子に取りてはさほど心配にもならぬ事柄でも女子に取りては痛切に胸を刺すのです、一家が困厄に陷つて家族路頭に立たねばならぬ恐ある場合の如きも、男子は其寛かなる胸に何事も堪へて忍耐もし前途の計畫も出來囘復の成算も立ちますものを、婦人にありては餘程非凡の人の外は一家の不幸、子女の前途をおもひ煩ひて遣るせなき悲觀の淵に沈むのが常で御座います、此時に當りたのむは只一人の夫あるのみ、其夫たる人の變らぬ愛情と信任の態度と百難屈せざる男らしき意氣とはよく妻の胸底に潜める勇氣をふるひ起さしめてこの敬愛すべき夫のためには、身も心も獻げて水火の難をも辭せざる滿腔の熱誠をつくすに至らしむるのであります。露をもいとふ纎弱なる女子が思ひもよらぬ熾んなる氣力を現はして不幸に沈める男子の慰藉者となり保護者となり、之がまた其夫の心に反映して、不屈不撓の勇猛心を ふるひ起し、其災厄より脱して一新活路を開くに至るといふ樣な現象は夫婦相互の間に湧き起る微妙なる愛情そのもの丶不思議なる働きに外ならぬのだと考へます。これ獨身者はや丶ともすれば失望落膽の極自暴自棄放縱に流れて囘復の道なきに至ることあるも、結婚せる男子は不幸の境をきり拔けて舊の地位を囘復するの早き所以であります。

彼のスケッチにある、レスリーの妻が何に一つ不自由といふ事を知らず、綺羅びやかに、飾り立て丶交際場裡に花を咲かせつ丶あつた身の、不意に其夫の破産と今日よりは未だかつて味ひしことなき貧困の生活をせねばならぬ事とを夫の口より打明けられし時、驚倒せんばかりに嘆くならんと思ひの外、一家の不幸とはこれしきの事に過ぎざりしかと泰然動せざる決心を現はし、其日より貧乏世帶に身をゆだね慣れぬ水仕事を事ともせず、しかも夫に獻ぐる愛情のます／＼こまやかなる有樣を讀んでは、誰とて感動せぬ者はありませ

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ん。しかし其前に夫なるレスリーが燃ゆるが如き熱情もて妻を思ひ妻をしてこの悲境に沈めしむるに忍びずと、幾日か苦痛煩悶する其愛情の深さは、この妻をしてかく潔き決心を實行せしむるに至つたのであると思ひます。實にこの夫にして此妻あり此妻にしてこの夫ありと思ふに至るので御座います、我國でもかゝる場合の例としてよく引用される彼の幕末の志士梅田源次郎夫婦の歌

樵りおきし軒のつま木も焼き果てゝ
　ひらふ木の葉のつもる間もなし
物たらぬ住居なれどもあまりあり
　われを助くる君あればこそ

夫婦相和して清貧に安んじて居る有様は、反て人の羨望に價するものが御座います。

從來の道徳は良妻たれ、賢母たれ、貞女たれ、烈女たれと女子にばかり義務を強いて其半面たる男子には何の敎訓もなく要求もないと言ふのはあまりに偏頗なことではないかとおもひます、よつて世間に出てはあつぱれ人物敏腕家と人々の賞賛を博して居る人が、歸りて家庭の人となりては聊かの價値もない事があるのは、まことに遺憾の事では御座いませんか。女が良妻たり賢母たると共に男子も良夫たり賢父たることを希望するのであります、これ今日一般の家庭が要求して居る聲ではありませんか。

私は英國の或紳士が友人の誘引を斷つて
今日は妻と外出の約束がありますから
と云はれた、言葉を耳にして、妻との約束位幾度でも無視して憚らざる多數の紳士に反省をねがひたいので御座います。

夫婦の間柄が從來の道德の如く主從的でなく互に其性格を貴び個性たる長所を發揮せしめて相信じ相助け友愛的に進んで行くやうになつたならば家庭の幸福はどの位であらうと思ひます。

わたつみの底に潜める寶とても、いとしの妻をもてる夫の
貴き慰藉になど及ぶべき夫婦の中に吹く春風の
高き香に比べて見れば 菫 の花とてなにかまさらむ
（ミッドルトン）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

細君孝行論

九里原 繁

古めかしい孝行と云ふ文字を掲げた爲に、本論に入る前に鳥渡「孝」と云ふことに就て一言を要する。從來孝と云ふことは子が親に仕へる場合にのみ用ひられるやうに考へてゐるが「孝」と云ふことの本來の內容はさうした狹小貧弱のものではない。萬物を創造しこれを哺育する天地の大靈に仕へることが孝と云ふことである。その具體的の代表者として不完全ながら幼稚なものには人の親と云ふものが最も解りよかつたから親孝行と云ふことを昔は道德の基礎としたのである。故に親孝行と云ふことには從來の親も子も知らなかつた深い〳〵意義が含蓄されて居るのである。今やそれが漸く明になつて來たのでこれまでの樣な親孝行は昔譚となつて仕舞つた。何故かなれば親孝行は小學の敎で人間も青年になれば大學の課程を學ばねばならぬからである。

物事は新らしい眼で見直す必要がある。新らしい心で考へ直す必要がある。親孝行の如きも考へ直して見ると妙なことをやつて來たものだと思ふことが澤山見出される。先づ第一親は何故に子に孝行を要求する權利があるかと新らしい心で考へ直して見ると何にもない。子が生れたことにより、ボンヤリしてゐた兩親が餘程眞面目になることが出來た。懶け勝ちの人間が一生懸命働けるやうになつた。子に對する責任から實重自愛する樣になれた。不可思議なるある天地の力を信ずる樣になる。此等のことを考へると親は子によつて實に大きくされた——例へ子も親もその事を自覺しなくとも事實は事實として辭むことは出來ない。恩と

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

云ふことが孝の根本であるならば親は子の恩に對して孝行をしなければならない。この點に就て細かいことは親孝行を論ずる時に限りこの事實に基いて細君孝行論の要點を擧げて見たい。

新らしい眼で妻君を見直すと今迄實に妙なことをやつて來た事に氣がつく。妻君としての資格ある人を家に迎へて新家庭を作つた時に良人の立場から見て何と人生が樂しくなつて來たではないか、締りのない男も妻ある身となつては引締らざるを得ぬ。妻の手前も世間の手前もある、品行も方正になれば勤勉にもなる。從つて身體も健全になれば新らしい世界を發見した樣なもので精神も物事の比較を見出し權衡が取れるやうになる。一々新發見を枚擧するの遑はないがまたその必要を見ないほど明かなことである。繰り返して言ふが孝とは萬物を創造しこれを哺育する天地の大靈に仕へることである。土と云ふものは平常人が餘り考へて見ないが地球上にありとあらゆるものを載せて不平も云はず（脚下に踏まれ通しであるが新眞婦人は載せてゐると信じてゐる）晝夜間斷なく默つて廻轉して働いてゐる。それがために朝日も拜めれば美しい夕日も眺めることが出來る、默つて萬物を載せて働いてゆく土の力は婦人のシンボルである。この大なる力が妻である母である。この萬物を哺育する天地の大靈の代表者たる妻君に仕へることが細君孝行である。親が子供に仕へるやうになつて初めて親は偉大になれる。その樣に細君に良人が仕へる樣になつて良人は眞の偉大となることが出來る。妻君が不完全であればあるほど內面的に深くなれる。併しこれは妻君の方から要求すべきものではない。自然にならねば駄目なのである。細君は土である。良人が大なる事實に驚いて自然に良人が自分に仕へるまで默して唯働けばよい。物々しく權利呼ばりをする時に仕へらるべき妻たる光榮は自ら放棄したものと思はねばならぬ。

世界で一番大なる力は事實の力である。卽ち實力である。新しい眼と心で萬物を見直し考へ直してゆくとき價値の顚倒に驚いて親が子に良人が妻君に貴族が平

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

民に仕へる時に眞に世が幸福にならう。妻君孝行は唯その中の一ッである。勿論係る意味に於て子が親に妻君が良人に仕へることは言ふ必要のないことである。
人間と云ふものはサタンではないが自分で威張つたり人を苛めたりすべきものではない。皆な尊敬すべき仕ふべきものである、子供にでも妻君にでも、其處に幸福の鑰が隱されてある。モウ黎明が近づいた。總ての人が新らしい光りで自分を見、人を見る時が來る。妻をも子をも。
神は公平である。何時の世でも常に實力あるものが表面には見えても見えなくとも常に實權を握り尊敬されて居るのである。世の妻君たるものも相當の實力あるものは必ず何處かにこの實驗を摑むで居る筈である一切のことは深く考へ直して見るとあるがまゝの姿の奥底に比いなき尊いものがあるのである。

本社の相談部

本年一月より、本社内に相談部を設け、

(1) 職業を求むる御婦人
(2) 職業の選擇に迷ふ御婦人
(3) 家庭及び一身上に苦悶ある御婦人
(4) 結婚の事

の爲めに、御相談相手となりて、出來得る限り力を竭そうと云ふことになりましたから、右の中の件で誰かに相談したいが生憎相談相手がないと云ふ方は遠慮なく本社相談部へ申込んで下さい、本社相談部の主任に面會したいと云ふ場合には午後六時過ぎにお出で下さい、夜お出の出來ぬ方は、豫じめ時間の都合を聞合せての後に御出で下さい。

大正三年一月一日

新眞婦人社

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

瀧口入道より尼横笛へ

高安月郊

大和の法華寺に横笛が其末期に元の情人時頼から受取つた文を衣にして着せた肖像がある。いつかそれを見てあはれにも面白く感じたが、或夜夢に其衣をほどくと

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

何として此筆執りしぞ、いぶかし、悄しともおぼさん、されどきのふ圖らずもおん事聞き、けふまたおん地へ行く人候まゝ止むに止まれず此筆執り候。さても嵯峨の菴へ尋ね來たまひしより幾月になり候ぞ。かの時は定めて、定めて、つれなし恨めしとおぼしけん、されど我も道に入りてより、まだ三月にも足らず、經讀めどきのふの春の霞立ちふさがり候を、ましておん姿見、おん涙見ば、淺き道心は急に破れて、法も忘れ、世も忘れ、總て忘れて、いかなる事なしけん、測り知られずと、御佛の前に伏して目閉ち候へば、まばらなる柴の戶洩るゝおん聲、虫の音より高きおん泣聲、我は幾度か立たんとせしが、また暗き中に光ある御佛に引止めらるゝ樣にてえ立たず、息止めて聞くともなしに聞けば、吾胸輕く踏みて消え行く足音、消え果つると共に駈け出でゝおん跡見れば早青き夜霧ばかり、風無きに散る紅葉幾ひら、されど內にもえ入らず、扉にもたれて思ひ出ださじとしても思ひ出だしゝは今にして最後となりし細殿の別、こゝろ細かりし曉の月影、まだうき知らぬ花の宴の夕風、始めて此世のさち知りし初春の朧夜、胸に收めたる畫卷今更に開きて生憎に濃き色目に見ゆる中、忽胸轟きしは若や都へは歸りたまはず、此世ならぬ遠き世へと思へば身顫ひて立ちもえせず、俄に急ぎて駈け行き候へば虫の音は止みて稍高き瀨の音、稍繁き落葉、冷なる風にいよ〳〵顫ひて大堰川のほとり行きつ戻りつ、月も亦落ちて、ほのかに白き千鳥が淵ぞ殊に長く見つめ候ひしよ。忽跳る魚の音に胸も亦跳り候ひしが、それも斷えて柳の葉ずれの音もせず、さては東か西にても早遠く行きたまひて緣も早斷えにきと心の絲の切れしこゝち、今ぞ始めて此世の紲も切れし思して歸り候、されど其夜は遂に眠らず、醒めながら見る夢は苦しきものに候かな。次の曉、筧の水に顏洗ひて、夢の痕も洗はんと御經開き候へば、吾目はきのふより明ながら、吾心には更に染まず、此身こそ死にたる跡の樣にて尙滿たぬ心の底、いかなれば昨夜は逢はざりけん、逢はざりしとて誰かは善しとする人善しとするも吾心嬉しきか、おん身の上また安きか、おん心はた安きか、けふはいづく、今はいかに、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

これよりやいかに。東の空見れば快く晴れて東山に出づる朝日何とやらん嘲る樣にて身と心引裂きたるきのふの苦、何の甲斐も無きこゝちするくやしさ。こは尙道心の足らぬ爲かと、老師にそれとなく質し候へど、早くより斯道に入りて心に覺え無き人の言葉は石の樣に候。さるにても釋尊は雪山の苦行半、耶偸陀羅姬に訪はれ給ひしといふはいつはり、よしつれなく逢ひ給はずとも、此思まで空しとし給ふは、餘りに寒き御敎、茲の樣なる春は無き國かとまで疑はれ候。其夕さと來る時雨に北の山白きを隱れもせぬ入日また染めて、えもいへぬ紫艶なるを見れば、昨夜忍びたる涙おのづから落ち候をまた拭ひもせず候ひしよ。それより嵯峨も住みうくなり、更に深き山に入りて此心の底叩かんと、凩と共に彼所を出で、今は有るか無きか東山の方顧みつゝ南へ下りて宇治川を渡れば、戀遂げし人はいくさに敗れつ、勝ちて御佛まで燒きし人はまた琵琶に泣くとは、鹿の音小倉山より近き春日野より猿澤の池に薄き衣掛の柳結びつ、ほどきつ、西の京の寺々、瓦落葉とちる中過ぎて茲高野の奥に入り候。山は思ひしより深く、世とは遠く離れて、佛法僧の聲は松の尾より繁く候。されど我佛と問へば法と答へず、僧はなまじひに多くて、同じ道修むる程尙爭び、世を遁れながら尙密に麓に通ふも少からず、院々の主は更に都へ通ひて、きのふは平家、けふは源家と塵の跡追ふ淺ましさ。更に思ひしまゝの山里求め候ひしが、所詮いづくへ行けばとて人の世は同じ人の世なるべし、隱家は唯心かと思ひ候へば、また去るも益無しと、それよりは獨修め候。嵯峨の時雨はやう〳〵乾きて、深山の雪は衣になり、春遲くとも待ちもせず、暦も見ず打過ぎて鶯の聲濕る夕暮に候ひき、奈良より來る人候て、何くれとなき物語する中に法華寺に若き尼あり、元大內に仕へし人にて名をしか〳〵と聞きし時よ。我はまた白き石と思ひし心忽破れて自知らぬ溜息ほとばしる心地、されどまた勉めてよそ〳〵しく聞けば、ひたすら道を修めて行ひ澄ましたまふとか、さては彼時の恨また晴れしか、世を捨てゝはた安きか、今こそ吾心のつらさ、苦しさも告げて、つれなさも詫び、また昔の間ならで新の道の伴

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

と一言いはんもあしからずと促がす樣なる便にそゝのかされて此文まゐらす。また返しゝたまはずともよし、唯過ぎしつれなさのみ吾心ならぬわざと知りたまひて、いよ〳〵道深く入りたまはゞうきふし繁き世に交らんよりさちあらんとこそ思ひ候へ。

今は　阿淨

元は　橫笛の君へ

橫笛の返事は高野の谷底でも探して見やう

橫笛より瀧口入道へ

日向きむ

前の世よりかとばかりたどらるゝ御文拜しまゐらせてよりひたすらさるべきたよりのついで待ち候ほどにけふとなり候

あはれ何よりか聞えあぐべき、今はとて戀もうらみも忘れはてぬる墨染の袖にあやしくかゝる露こそはなほよのなかを思ひはなれぬしるしにやと胸痛く、御佛の前に打ふして念じ明し候も幾夜、かくてあらじと提婆品誦すればいまは中々なさけとなりしありし夜のおもひで、小柴垣洩れて聞え來る御讀經の御聲、はたと止みたるあたりさへおぼゆるに是もまたかひなかりけり、いでさらば御文に返しまゐらせむ御佛の導きなくばいかでけふにあひ候べき、世につけるほだしさへ道に入る緣となるならば眞を慕ふ心のゆくゑおぼつかなき事あるべしやとて筆とり候、かの夜驚かせ參らせけるも仇し世にひきとゞめむとにはあらず、つひにゆく道にも後れさきだた

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

庭家とミシン

○大正三年に處する御婦人は家庭内で年中衣服の仕立物ばかりして居られるでしやうか、政治家でも商人でも學者でも宗教家でも官吏でも夫の業務を理解する丈けの知識を持て、之れに同情し、之れを補佐しなければならぬ事はありはせんでしやうか。

○して見ると家族の衣服の仕立を何とか從前よりは輕便に簡易にしなければならぬが、それには機械によるより外に道はありますまい、その機械は何んでしやう、ミシンぢやありませんか。

○世界各國を調べて見ますると手縫の發達して居る國は皆衰微して行つて居ます、ソレは世界中で最も手縫の發達したる國が、エジプトと支那と朝鮮なのでも分ります。何ぜソウなるかと云ふに手縫が發達して居ると外國からも手縫を依頼されますので、ソレがいよ〳〵上達して、時間のかゝる賃銀の安い仕事に婦人がかゝり切りになる結果、その國は衰へるのです。其の反對にミシンの盛なる國に限り富國強兵になります例へば婦人が一月かゝつてする仕事がミシンを使へば五日で出來ると、後の廿五日は他の事業に働くことが出來るのです、これまで二十圓の

仕事の出來た婦人は五十圓もの仕事が出來るのです。一家一人の婦人でさへさうであるとして見ると、三千萬人の婦人にして見ると大變な餘裕が生じて來るわけで、日本の外債位はミシンを使用した餘裕の婦人の仕事丈けでも返却することが出來る樣になります。

○凡て御婦人方の多數は保守的で、新らしいものに着手する勇氣と決斷が乏しいので、善いとは承知して居ても容易に新らしいものには手を出しませぬが、ソンな風は早く止めて、これからは何でも仕事の時間を節約する工夫をして、知識を發達さす時間を拵へればなりません。就ては一般の御婦人が使用法を御知りになると云ふ事が一番肝要なのです。そこで弊店では熟練なる女教師をして、當店へ御出での方に又は御家庭へ主張もさせまして、無料御教授をさせて居ります。

○代價は手ミシン四十圓より五十六圓位。
足踏臺ミシン六十五圓より百五十圓位。
その他格安品も澤山準備してあります。

東京市日本橋本町二丁目九十番地
シンガーミシン會社
東京販賣部
電話本局一九八〇番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

じとちぎり置かせ給ひしを、そよとだにいはでひとりのがれたまへるがうらめしく、我も後るゝものかはと御あとしたひ、尾花の袖も白き野を、たゞ法輪寺の奥とのみ、いづれの坊ともしらず彳みありき候ひしか、思ひ出づるだにはづかしき亂れごゝろをいまさらに何とかは語りいづべき、たゞありとは見えてあひ給はぬ君が心をうらみわびつゝ大堰川の瀬の音にひかれ寄れば、撞きいでし山寺の鐘のひゞき、打けぶる月かげに波とたゞよひ、ちゝと鳴く千鳥の聲もあはれなるに、いまはこの世にのぞみもなく後の世のたのみさへきれはてぬるを、いかでか內裏にかへりましらはむ、ひとに見ゆるもはづかしき姿を、わが名と共にとこしへにこの淵に沈めてむと小石拾ひつ、今はかぎりと佛名唱ふるほど、まのあたりたつは鈴うちふりて念珠したまふ君がおもかげ、つらき命はつゆ惜しからねども、ともかくもなりぬるよしをいつか傳へきゝ給はむにはいとゞ罪ふかく思ひ給ふらむことのかなしくこれもまた心には叶はざりけり、ちりうち拂ひつゝつく〴〵とおもへば、別るゝ爲に逢ふかあふためにわかるゝか、逢ふといふも別るゝといふもゝとせにたらぬ人の世の夢、はかなき影をありとみていつまでかさすらふらむ、現し身のこの目みずとも、現し世のまたからぬ言は通はずとも、天かける心の翅ひきとむるものはあらじ、同じ世に同じ情のゆきかよひてかはらぬ道の奥深くもろともにたづね入らむこそ、まことにまことの望みなりけれと思ひしりぬるも君がつらさぞわがための善知識には候ひし、こゝに籠り候てよりはひたすらに道わけ入りて君が歩みに遅れざらむとのみ念じ暮し候、さはれ今はかたみに家を出でぬる身のいにしへのよすがならで、まのあたり御敎訓もうけたまはらまほしきを女人とゞむるてふ御山のおきてこそなほつらくは候へ、八歲の龍女のためしも候ものを、いのちなきおきてに囚はれぬるこそ解けたるのちのいましめとや申候べき、とにもかくにも此たびの御消息よ、優曇花のはな待ち得たるこゝちして、まだしらぬ胸のときめきはいにしへのものと似るべくも候はず、是ぞまことの靈のよろこびとは申候ふべけれ、夕闇のみちなほたど〳〵

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

しきを妹ともおぼして遠ながく導き聞え給へ、はや夕べの行もちかくなり候ほどにこゝろも急がれて、あかずをしけれどこれにてとゞめ候かしこ

阿浄さま

よこふえ

圓に見立て家庭を論ず

東洋家政學校長　岸邊福雄

一

私は家庭を圓に見立て說きたいと思ふ。さて圓には二つの中心があることが出來ぬ、二つの中心あれば隨圓形になつて了ふ。而して其の中心には誰れがなるかと云ふと、夫が其の中心であらねばならぬ、他の理由は兎に角歷史上の關係がありますから。ソレから妻君は半經です、夫を中心とし、妻君を半經として描いた圓が卽ち家庭で、老父母も、小供も皆な此の中へ這入て了ふのです。さすれば主人たる夫がグラ〳〵して居る樣なことでは、妻君がドンナに半經となつて圓を描こうとしても、圓は出來ませぬ。家庭の圓滿と云ふことには第一に主人たる夫が確かりして居ることが必要である。けれども夫が如何樣に確かりして居ても、妻君がボンヤリでは駄目である。之れ私が日本の御婦人方に鋼鐵主義をおスヽメして居る所以である。

二

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

私共の學校では、女子に鋼鐵の徽章を佩用させて居る、鋼鐵とは如何にも變だが私の曰くはコウだ。私の學校では貴金屬の樣な女を造らうとするのではない、一般向の實用に堪へる女を造りたいのである、金屬の中で何にが一番實用的だと云へば、鐵である、其の鐵の中でもズクでは困る。堅いことは堅いが、如何にもモロい、所が鋼鐵は堅くて强よい、ソコで私は鋼鐵を撰びて徽章としたのである。

ソレに聊か細工をして梅の花の形にした、花ならば櫻、人ならば武士と云ふに何せ櫻の花の形にせざりしか、櫻は時候の善い時分に咲いて、直きにパット散て了ふ、櫻の樣な女では仕方がない。梅は之れに反して諸花に卒先し、霜、雪に打ち勝て咲く、而して散る時には實を殘して行く、櫻の實は櫻ラン坊位で僅かだが梅の實はタイしたもの、梅に道樂梅は少ない。之れからの女は此の梅の樣な女でなけらねばばならぬ。然かり堅忍不拔の女でなけらねばならぬ。

ソレから徽章の裏には『一生懸命』の四字を彫刻した。モウ少し氣のきいた文字もありさうなものぢやと云はるゝか知れぬが、腹の立つ時に怒りを見せなとは云はぬ、怒る時にはウント怒れ、其の代り衝突した時に折れるな。コウ云ふ考へから『一生懸命』の四字を撰んだのである。

新聞に能く鐵道往生だの、投身だのと云ふ記事が現はれるが、少し位困つたからとて鐵道で往生するの、水に飛び込むのと云ふのは心細い、今少し鋼鐵主義が欲しい。

昔、信長が

鳴かずんば殺して了へホトヽギス

と云ふと、家康は

鳴かずんば鳴くまで待ふホトヽギス

と謡つたと云ふが、時節の來るまで待とふとは面白い。己れを磨いて時の來るを待つ、鋼鐵は磨くと光る、磨くと剝る樣な鍍金の徽章では困る。

今まで述べて來たことを言葉を代へて言ふと、理性が明かな、智慧のある、意志の强よい婦人を造らねば

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ならぬと云ふことになる。若し其の様な婦人が増へれば、婦人の位置は直ちに高まるのであるが、今日の婦人には如何にも實力が足りない。

私は幼稚園をやつて居るが、先づ其の事を幼稚園で感ずる。今日は幼稚園の敎師には女でなくてはならぬ

私は園長と云ふ名義で幼稚園に關係して居るのであるが、日本の女は餘りにナヨ〳〵しさが過ぎて、小供に對して押へがきかぬから、日本の幼稚園では男の敎師が一人這入らぬと駄目である。西洋の女はおキャンであるから出來るが、日本の女では出來ぬ。

家庭敎育の上から見ても、母ばかしで育てた小供は一番成績が惡い様である。横濱及び神戸で船乘りの小供の學校の成績を調べ、ソレを官吏及び醫者の小供と比較して、左の如き表を拵へた人がある。

	官吏の子	醫者の子	船乘りの子
國語	八六點	八六	八三
歴史	八五	八五	八〇
數學	八五	八三	七八
地理	八五	九〇	七五
理科	九〇	八五	七五
體操	九〇	八八	八四
唱歌	八五	八五	八五

復習を要しない唱歌の一科丈けが同點で、苟しくも多少の努力を要する科目では、父が絶へず留守である船乘りの子が負けて居る。

中學生に就て調べて、母のない家の小供は中以上の成績を取つて居るが、父のない家の小供の成績は中以下であると斷定して居る人もある。

斯く日本の女には、まだ實力が足らぬのである。古い夫婦揃ふての寫眞を見ると女は坐し、男は立て居る此の頃では女が腰をかけ、男が立て居る、漸やくコヽまで進んで來たのである、將來は兩方立つ所まで進まねばならぬ、ソレには差當り日本の女に今少しく鋼鐵主義を注入するの必要があると考へる。

右は第二回新眞婦人社講演會で、先生のお話下さつた、筆記です、紙面の都合で多少省略致しました、文責は元より記者にあるのです。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

男女兩性相異論

（オリヴ・シユライネル女史の『婦人と勞働』紹介の六）

高野重三

男女の精液が相合して、ソコに新に人間が出來るのであるが、其人間則ち胚種を調べて私共がそれを男女に區別することが出來る程、今日の學問は進んで居ない。此の胚種が女子の胎内でダン〳〵生長して來て後も、產婆は色々の事を云ふが、ソレは當て推量であつて、實は生れて見ねば確かな事は判らぬのである、生れると判かると云ふても、それもたゞ生殖器の相異によりて見分けるのであつて、男女の身體の組織、形狀等には、何の相異もないのである。小供が次第に生長して年頃になりても、直接間接生殖器に關係する事の外、別に、何等の相異はないのである。全く生長して一人前の男女となりて後も同樣で、假りに男子の肉一片と女子の肉一片を比較して見るに如何に大なる解剖學者と雖も其組織に區別を見出す事が出來ない、腦の組織に於ても同樣で、男子の腦の一部と女子の腦の一部を持て來て、二者の區別を見出せと云はれたらドンナ學者でも一寸困るであらう、斯く身體の組織組立に男女の相異はないのである。

五官の組織及び動作に於ても、男女によりて別に相異を見出す事は六ケしい。

進みて精神の働に就いて考へて見ても、結果は同じで、例へば玩具の如きにしても、世人は女の子は針、糸、人形等を以つて遊ぶ事を好み、男の子はそれと反對に、活潑なる遊戲に適する玩具を好むと云ふて、玩具の上でさへ男女の相異は明かであると云ふ人もあるが、併かしそれは風俗、習慣、の相異から來たもので、同じ習慣、風俗、則ち四圍の境遇を全然、同じくすれば、其結果はヤハリ同じで男女の區別を見る事が出來

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ぬに至るのである。尙ほ男女生長して後、學校で理科なり數學なりを學ぶ場合、女子の答案は男子の答案と別に相異を認むる事が出來ない。

又男女間の風俗、習慣、又は心理上の相異よりも同性間に於ける相異の方が却て大なる事實は澤山ある、又同じ事に對する趣味、好尙、風俗、習慣等にても、人種により相異するを見る事は屢々である、則ち一の人種の爲す所と、他の人種の爲す所と正反對な場合さへある。例へば野蠻國では男子が色彩の濃厚なるものを好み、又頭に鳥の羽根などを飾り付けるが、此の野蠻國の男子の好む所も、歐米文明國の婦人の好む所とは能く似て居る、野蠻國では、女が頻りに煙草を吸ふが、文明國で煙草を嗜む者は重に男子である。又風俗と云ふものは時代によりて異るもので、二百年前の英國の男子は襟や袖先にレースを付けて居たが、今日の歐米婦人は、二百年前の男子の風をなして居る。斯く時代により、人種によりて色々と其風俗、習慣には相異はあれども、男女の間で先天的の相異を認むる事は出來ない。

又下等動物に就いて見るに、蜘蛛、蟻、蜜蜂等は雌の方が雄の方よりも身體が大きくて力强く戰鬪力も烈しい、隨ふて雌に養はれて居る雄も多い、魚類の中でも雌が大で雄の小なのが普通である、鳥の中では鷲や鷹は同樣で且つ一雄一雌の制度を確く守り、而して不幸にして雄が死する場合には雌は再び他の雄に配せず又雄雌共に雛を一生懸命に保護する、駝鳥の如きは雄は雌よりも大なれども、卵を孵へす場合には毎日數時間宛雄は雌に代りて其事に從ひ、雌をして息ましめ、又一旦孵化したる時は雌も同樣に優しく其雛を世話する。又アフリカに居る美聲を以つて啼く鳥の如きは、雌雄共其身體の大さは同一にして一見之れを區別する事難く、是又一雄一雌の制度を確く守り、其交情の美はしき事は殆んど人間夫婦間の交情の理想と雖も之れに過ぐる事は出來ない位です、然るに同じ鳥類の中でも鷄の如きは、雄は雌よりも大にして之れは純然たる一雄多雌たる事は誰も知つて居ます。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

哺乳動物の中では鯨は雌大雄小なれども、他は概ね雄大雌小です、而して雄は氣分荒らく且つ雛の面倒を見る事尠ひです、而かし之れにも例外があつて、雌の方が却て氣分荒らく雄よりは馴らしにくひものもある、然るに雄は却て雌の方よりも雛の面倒を見る、啻に自分の雛のみならず他の雛でも同樣に深切に世話するものもある、甚しきは食物は一切雛にやり自分は爲めに饑死するものもある。

犬の心理作用は雌雄何れも殆んど同じで、獵犬のポインターの如きは、兩者何れも其活動振りに相異を認めない事は獵者の均しく知る所である。

斯の如く下等動物より高等動物に至り、終に人間に及び、雌雄又は男女の風俗、習慣、動作等千差萬別にして、四圍の境遇に從ひ其狀態も變化し行き、雌雄、男女に依り一定不變のものなく、男女間只だ直接なり間接なり生殖器に關する事柄を除くの外、男女に依り有機的に一定不變の相異を認むる事は出來ないのである。

假りに犬に就ひて考へて見る、平素は雌雄の間其動作に何等の相異を認むる事は出來ないが、一たび交尾期が來て雌が孕むと次第に神經過敏となり、子を生むと愈々其度を增し人間でも其傍らに近かづかせない、之れは人間でも同じ事で、平素は男女の間其心理の作用に於て何等の相異を認めないが、一度交接する、男子は一笑の裡に之れを行ひ、時としては醉拂つて殆んど其何をなせしやを記臆せないものさへあるが、女子は一度男の種を宿すと、其時より心理の狀態が變はり十ケ月の間其事念頭を去らず、十ケ月後死ぬ程の苦しみをなして其子を生み、又それを相當の年頃になる迄養育す、男子は到底其間の女子の心理作用は判らぬ、そこで始めて男女の相異を認むる事が出來るのである。

斯くの如く直接なり間接なり生殖に關する事の外に平素は男女の間に先天的に相異がないのであるから、之れに直接關係なき事譬へば政治、經濟、社會の問題に關しては女子は男子同樣之れに關係して差支ある

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

理由はないのである。又直接なり間接なり男女の事に關係ある事柄では、男女共に互の心理作用を完全に推察了解する事が出來ないから、是等の問題に女子をして男子と共に從事せしむれば、今より尚ほ更に完全なる事が出來るであらう、されば女子をして男子と同じく譬へば選擧權及び被選擧權を持たしめ、共に立法、行政の事に當らしめたらば、更に人世を完全ならしむる道を得るであらうと思ふ。

男子は一笑の裡に生殖作用を行ひ、爾後其結果に就ひて何等自身に直接に關係するなく女子は其爲め永く種々の苦勞を重さぬるにも關はらず、其子供に對する權利は男子程ないとは何事であるか女子の貴重なる身體を僅かの金錢の爲めに、暫時なりとも賣る事を國家が認め、甚しきは之を奬勵するが如き事あるは、女子にとりて無關係の事なるか、不品行なる女子と同樣なる男子に對する法律が各々異り居るは、女子にとり何でもなき事なるか、不義を行ひし女子は其爲め直に離緣さるゝも、同樣なる不義を行ひし男子に對して其妻は直に離緣を求むる事出來ざるは何事なるや、是等の最も重要なる問題に關し、女子は己が特有せる女子の立場より、其解決に男子のみにて得られざる知識を、補充する事を得ると信ずるのである。

男女先天的に相異なき理由によりて、男女の區別のなひ職務には、女子も同樣に從事する事が出來、又男女に關係したる事柄に於ては男子は女子と異る爲め、女子の心理を十分理解する事出來ざるが故に、女子をして同樣に之れに關係さする事が、それに對する世界の智識を完全ならしむる道である。之れを要するに女子も男子同樣此世にありとあらゆる職務に從事する事を要求するのである。

性慾問題

▲本誌十二月號に高島平三郎先生の「性慾問題」を載せましたが、新公論十二月號には栗本庸勝氏の「性的教育論」が出で、又第三帝國十二月號にも性慾問題に關する海野幸德氏等の文が掲載されました。此の問題に關する著書としては、海野氏の「男女の生活」小倉淸三郎氏譯の「性的特徵」などが出ました。コウ云ふ必要なる研究に着手する人の次第に增へて來たのは悅こぶべきとです。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

自然と小供

露子

◎米國人は近頃切りに戸外生活と云ふことを高調し、應接間でも、食堂でも、絶へず窓を開けてある、中には寢るにも窓を開けたまゝで眠り、モウ少し突飛なのになると寢臺を窓の傍へ持て來て頭丈け窓の外へ出して横になり、上から物の落ちて來て怪我のせぬ要心をして寢て居るものがあるとのことである。

◎家の構造などもダン／＼研究に研究を重ねて風通しのよい樣に工夫し、中には屋根と柱とカーテンばかりの家を建てゝいるものさへあるとのことである。

◎成る丈け戸外運動を多くせよとの思想が、ダン／＼發達して來て、今では、屋内にある時でも戸外にあると同樣にし、人間を全然戸外生活のものとしようとして居るのである。

◎斯くなつて來たのは、新鮮なる空氣の人間の生活に必要なことが、愈々明白になつて來たからである。

◎日本の御婦人方の中には、小供を成る丈け家の内で育てたがる方があつて、今日は風が吹くから外へ出なとか、今日は雨が降るから外へ出なとか、或は危ないから外へ出なとかと色々の口實を付けて小供を外へ出すまいとするが、ソンナ人の小供に限つて身體が弱い、之れは母親が無知な爲めに、人間の生活に一番大切な戸外生活と云ふことを小供に禁じた當然の結果である。

◎小供を外に出せ、スゝメても出して遊ばせなさい。而して時々は父母が引きつれて遠足でもなさい。米國の少女倶樂部では、少女によく遠足をさし、歩く稽古をさすと共に、歩きながら自然に談話の稽古をさして居るとのことであるが、日本でもソウ云ふ風のことを始めたいものである。

◎外で遊ばすのも、たゞ／＼歩く丈けでは駄目だ、盛んに草むしりだの、泥いぢりだのをさすがよい、泥いぢりが、小供の身體を壯健ならしむる上に大効ありとのことです。

◎小供を自然に接せしむることは、小供の身體を壯健ならしむるばかりではない。小供は自然から多くの智識をも學ぶのである、成るべく小供に自然を見て自から疑問を起すに至らしめ、疑問を俟て說明してやると爲めになる。

◎更に小供に自から花を作らせたり、動物を飼せたりして見ると、花なり動物なりが、自分より弱きものであり、自分に屬せるものであると云ふ所から、自然小供の心中に、同情だの、注意だのと云ふ念が起つて來る、而してソレが小供に道德心を起さす基ともなるのである動物を飼はすと、小供の殘酷な精神が大に減ると云ふことである。

◎田舍に住んで居ても、舊い思想の人は猥りに外へ出るのを下等であると考へて、自分も存外自然に接せず、小供にも接させぬが都會に居ても心掛け次第で、隨分自然に接することが出來る、私は成る丈け自分も自然に接し、自分の小供にも自然に接するやうにしたいと努めて居る。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ナポレオンの女性觀

長瀬鳳輔

一

ナポレオンは埃及に遠征した時、序手にシリヤをも征伐したが、其の時に彼は流丸に當りて輕傷を受け、二三日陣中で休養したことがある。此の休養中に、彼はドウして其の時にソンナことを思ひ出したのか分らぬが、女子教育の必要に就て論じた一書を認めて、巴里の元老院へ送つた。此の一事を以てしても彼の女子教育に熱心な人であつたことが分る。けれども彼は婦人に餘りに高尚な教育を授けることは必要と考へて居なかつた、又彼は男性的な婦人は嫌つたが、貞操の固い、女らしい女を尊敬することは非常であつた。

精神病者は大抵足の冷へるものだと云ふが、天才たりし彼も、天才は狂者に近いと云ふ原則通り常に足が冷へて困つたと云ふことである、ソレで彼は何時も室内を暖かにして置くことが好きで、皇后が窓を開くと必らず叱る。ソンナことからルイゼとの間に諍ひがあつたがジョセフインとの間にも同じく諍ひがあつたとのことである。併しジョセフインは非常に柔順な婦人で、何時も受身で、自分から爭ふたことはなかつたソウな。又彼女はナポレオンとは相思の間柄なりしにも係はらず、曾つて一言も政治上の事などに就ては相談を受けたことがなくても不平を云はなんだと云ふことである、ナポレオンはアレで、却々燒餅屋で、ジョセフインの淑德を疑ふたこともあつた。殊に埃及遠征中の如き、其の弟から『ジョセフインは此の頃若い人達と舞踏ばかりして居る』と讒言して來たことがあつたが、彼は之を信じて、巴里へ歸つて後暫らくジョセフ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

インに面會を許さなんだことがある。ナポレオンの方からコンナことをしても、ジンセフインの方からは決して喧嘩をしてかゝらなんだ、さればナポレオンはジヨセフインを信じ、且つ之れに感心して『凡て婦人がジヨセフインの如くなれば、誠に申分がない』と云ふて居たと云ふことである。

二

ナポレオンは貞操の固い婦人を尊重した人であるから、彼の傳記の中に左の如き逸話がある。

彼がプロシヤ軍を打ち破つて伯林へ這入つた時のことである。プロシヤの或大將が彼に對して陰謀を企てた、彼は直ちに其の大將を捕にして死刑に處せんとした、所が其の時に其の大將の夫人が、彼に面會を求めて一生懸命になつて夫の命乞ひをした。ナポレオンは夫人の言を聞き了りて後、無言で机の上の紙を指した夫人は恐る／＼近かづいて見ると、其の紙は夫を死刑に處する宣告文であつた。之れを見て驚ける夫人に、彼は又無言でカン／＼燃へて居るストブを指した、紙を指して更にストブを指した、ソコで夫人は其の意を悟り有難涙に咽びつゝ、其の宣告文を火中に投じた。ソウ云ふ風に彼は夫を思ふ夫人の爲めには、敵と云へども之れを許したのである。

モウ一つの例は、ナポレオンがサクソニヤのワイマへ攻め入つた時のことである。其の時ワイマ公が彼に敵對をしたので、彼はワイマを攻め取りて後に、兵士に市中を掠奪せしめようとした。ワイマ公の夫人はどうかして彼に掠奪の中止を哀願しやうと思ふて、彼がワイマの宮殿へ這入て來た時に面會を求めた、其の時には面會が許されなんだが、翌朝使者を以て更に願つて面會が許された、夫人はナポレオンの前に出て

どうぞ、掠奪は許して下さい

と哀願すると、ナポレオンは

御身の夫は予に抵抗したではないか

と答へた、夫人は之れに言葉を返して

夫の閣下に抵抗したのは、閣下には罪となるかも知

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

れないが、積年の恩義に與かれるプロシヤへは忠義の爲めで、實に止むを得なかつたのである。

と、飽まで夫を辯護した、ナポレオンは之れに感心して直ちに御身の言を聞くと云つた夫人は大いに悦こびて禮を述べると、ナポレオンは

余は御身の夫の罪を許すのではない、御身の貞操に感じて掠奪を中止するのである

と言下に答へられたと云ふことである。

三

以上のとは反對に、ナポレオンに哀願をして失敗した婦人がある。ソレはプロシヤが佛蘭西の半屬國となつたチユジツトの平和條約の時のことである。プロシヤの王妃ルイゼがナポレオンに面會を願ひ出た。ナポレオンは早速許して面會した、而して其の時に机上の花瓶にあつた茨の花を一つ取つて王妃に與へようとした。所が王妃はソレを受け取らずして、どうか茨の花の代りにマグデブルヒを取らずに置いて下さいと哀願した、スルト彼は顏色を變へて

茨の花を與へたのは余である、御身が與へたのではない

と怒つた。斯くて王妃の哀願は無駄になつて了つた。此の時にルイゼは美人であるに、ナポレオンが其の哀願を拒絶した所から、實はナポレオンがルイゼを挑みて撥付けられ其の恨みで、ルイゼの哀願を拒絶したのであると云ふ風説が立つた。而して此の風説が巴里に傳はつてジヨセフインの耳へも這入つた。ジヨセフインは之れを耳にするや否や、早速ナポレオンに手紙を出して

苟しくも女王ともあるべき者を、侮辱すると云ふことは宜しくないではないか

と詰つた。ナポレオンは之れに答へて

兎に角、世界の婦人が、皆な御身の如くあれば、余は決して婦人に侮辱を與へぬ。ルイゼは余を侮辱した、故に余は之れに返報したまでゞある。

と巴里へ書き送つたと云ふことである。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

四

ジョセフインは其の落魄時代に、佛蘭西革命に關係せる多くの女丈夫の世話になつたが、皇后となつて後は、ナポレオンはジョセフインが此等の婦人達と交際することを禁じた。之れは一つは、其の主義の異なる所から、此の婦人達がナポレオンを攻擊するからであるが、二には、此の婦人達の操行が修らぬのをナポレオンが嫌てゝあつた。

斯くまで婦人の貞操を尊んだナポレオンのことであるから、彼が婦人を挑んだなぞと云ふことは大抵、作り話であると考へる。其の中には彼を惡人にしようとて故意に拵へた作り話もあらうし中には又英雄色を好むと云ふ樣な概念から、ナポレオンにも之れ位なことはあつたらうとて拵へた作り話もあらうと考へる。

要するに、婦人は婦人の天性を發揮せよ、同時に堅忍不拔の精神がなくてはならぬと云ふのがナポレオンの婦人觀である。

古い女

中里介山

〇

私は壺坂のお里が一ばん好きです、烈女とか賢母とか云ふ畏いところのある人でなく、情味が溢れて居てそして徹頭徹尾健全です、「一旦殿御の澤市さん、たとへ火の中水の底」に至つては殉教者の意氣ですね。

〇

女で禪に出入したものも少からず、白隱門下あたりにも變つたものがあるやうですけれど、禪はどうしても男性のものでせう、其の代り淨土門の尼といふものには平家物語風の優美な聯想が起らないでもありませ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ん。

○

近松の心中物などに現れた濃厚な上方風の女も面白いと思ひます、其の情緒纏綿たる趣には酔はされない限りもないが、當代あんな心意氣の幾分が上方の女に殘つて居るか知らん、同じ情に殉ずる女にしても、關西に見ることの出來ないのは八百屋お七でせう。

○

靡爛した下町風の女も、趣味として見る時に私は面白いと思います、澤村源之助の扮する此の種の女の芝居を大抵私は見に參ります、併しそれは一種の女としてながめて面白いので、實地に交際したら我々とは調子が隔絶することゝ思ひます。

○

天保末年の或る記錄を見ると、三上山に非常に美しい女賊が住んで居たこと、公家が三人變死した事、其の中には賭博犯があつた事、將軍家が障子の內で遊女「金山」の吟味を聞いた事、公家の入江殿が穢多の娘と出奔した事、大念寺の惡僧の事など、興味多き幾多の事實が傳へてあります、殊に女の穩密が美裝して同心の非違をたゞすなんといふ奇拔な政略もあります。女檢非違使などは振つたものですね。

○

旗本の家庭などには隨分墮落したものが多かつたらしいが、遊女などに多少意氣の存したものもあつた、勤儉政治の過酷を論じた意見書に歌を添えて濱松侯に送つた大阪新町の遊女「直江」(十八才)の如きは、中々面白い女であつたやうです。

齒固に梅の花かむにほひかな　如行

けさの春寂しからざる閑かな　冬松

たてゝ見む霞やうつろ大鏡　野水

はつ雪を見てから顏を洗ひけり　越人

はつ雪や先づ草履にて隣まで　路通

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

廓清會の藝妓論を聞く

▲高島米峰氏の藝妓論を花月の女將が反駁した、其駁の又駁を聞いて一寸面白かつた、けれども此角力はどうも米峰先生の負と見た、米峰先生は決して負けて居ないおつもりでも花月の女將の方が役者が一枚上だから仕樣があるまい。昔學生は卒業の祝宴をそば屋の二階で開いた、今の慶應早稻田の學生は堂々たる一流の料理店でそれを開いて藝妓や半玉を招んで遊ぶ、藝妓稅をもつと高く擧げて國庫の收入を殖すと共に、學生輩の手にあはぬやうに大抵の成金も往生するやうに思切つた增稅をするがよい。蓄妾稅もウンと取るがよい、雇ふ旦那と雇はるゝ妾、双方からウンと取るがよいと、尤も至極なお說のやうに拜聽した。

▲内ケ崎作三郎氏の演說の中には「フロレンスナイチゲールは、平和の女神愛の權化として殆んど人間離れのした神の如き女性であつたが、近頃新らしく出された同女の傳記には、特にある一人に人間として女としての戀情を捧げたとが日記の斷片として殘り、其の中にたゞ自分はもう年が三十歲である餘り小供じみたやうな自分一身の戀愛のこと等は決しておもふまいと自ら戒めて在つたのを發見したと書いてある」と云ふ樣な面白いお話もあつて、全體の趣旨は、如何なる女にも深く心に宿れる宮がある、此宮を全き富とさせるために、藝妓問題は日本國民が擧つて協力一致解決すべき一大問題であると云ふにあつた。

▲次は成女高等女學校長宮田修氏で、往昔ギリシヤのあの文化隆盛が一朝にしてローマのために滅亡した其遠因は、當時のアテーナの婦人が悉く皆無敎育沒趣味であつたために、非常に多く方面に優れたる當時のアテーナの男子は外國より流れ來れる遊び女を宴席に侍さしめて遊蕩に耽り、文弱に流れて終にローマの滅す所となつたのである。當時のアテーナの無智無敎育なる婦人の多かつたのは現時の我國の有樣に酷似して居ないであらふか、もつと男女交際の道を開き、趣味の敎育を施して酒を呑み茶亭に戲るゝ以外にもつと高尙なる娛樂の機關を具へるがよい。正直で儉約で萬づ愼しみ深く消極的なる世帶持ちのよい妻君よりも、派手な傳幡な思切つた女の活潑な擧動や言語がつひ男の心を挑發するやうなことが往々あると、女子敎育家としては實に賴もしい御尤もなお說と感心して拜聽しました。

▲向軍次氏は個人の價値を沒却せしめた敎育法が今日の盲從婦人の意氣地なし婦人、藝妓賤業を稼ぐを何んとも思はぬ女、又それを買ふ不都合な男を敎育したのだと恐ろしき勢で攻擊された。

▲山室軍平氏は婦人救濟會の仕事の例を引いて當夜の靑年聽衆を氣の毒な程叱り通しに叱られた。

▲高崎介藏氏は一紳士の家庭の例を引いて何でもない些々たる一つの出來事が終に救ふべからぬ一大事となることを考へねばならぬと云ふ、現代社會の欠陷を、パノラマとして聽衆の目前に展開されました（神田靑年會館にて大正二、一二、一三夜稿　みち子）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

女人國記（三）

西川光次郎

長州の女

◎徳川時代に、長州武士の家庭に於ては、算盤を知りては人間が卑しくなると云ふて、家に算盤を置かず、學校でも武士の子弟には算盤の稽古をさゝなんだと云ふことである。

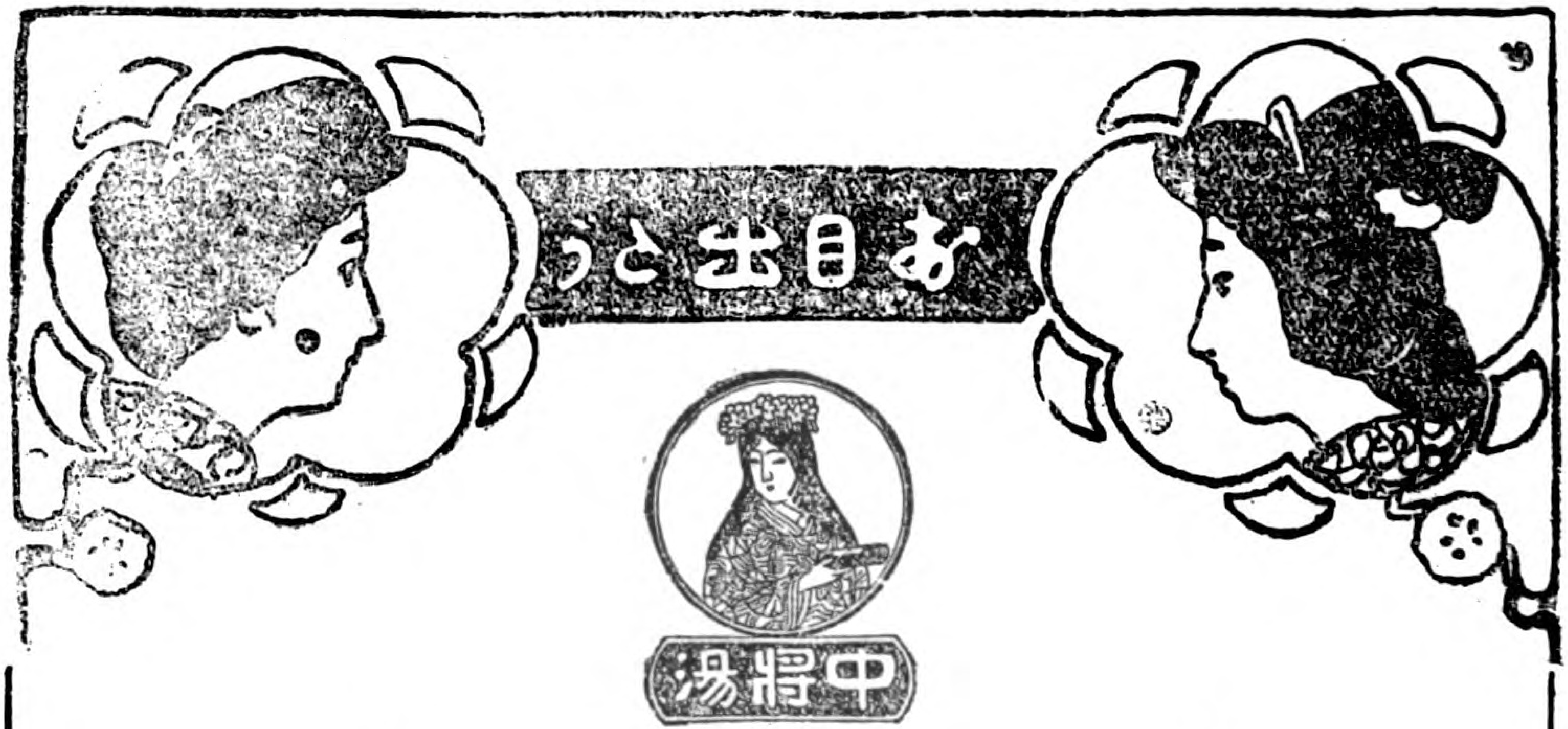
◎斯く金錢に對して嚴格なりしと共に、結婚などに對しても嚴格なものであつた。媒介人から本人の父母へ相談があつて、話が熟すると親類會議を開き、親類會議でソレが可決されると、其筋へ結婚の願を出す、スルト其筋の役人が色々と調べる。而して調べた結果不品行の馴合ひからの結婚でないと云ふことが分ると、茲に始めて結婚を認可するのである。

◎いよ／＼其筋の認可も得たと云ふことになると、ソコで始めて日を定めて結婚の式を擧げるのであるが、其の式場へ又藩の目付役が列席する、其の時若し式が身分不相應に立派でゝもあれば、直ちに告發されて、ソレが一家の不利を來たす一原因にもなつたものだ。

◎此の目付役と、其の下役の横目とは、絕へず武士の家庭に注意を拂ひ、若し家庭に風波が絕へないとか、或は竊かに妾を蓄へてるとか（子なき場合には、願へば妾を置くことが許されたものぢやソウな）、又或は身分不相應に贅澤をして居ると云ふ樣なことが分れば、直ちに相當の手續をして其者を親類預けにしたり或は減俸の罰に當てたり。又或は甚しき罪でもあれば、遠島、斬罪等にもしたものぢやソウである。

◎小罪を犯しても親族あづけ、若し大罪を犯せば罪九族に及んだ程であるから、一家の中に於ては、勿論一

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



『新年お目出たう
昨年中はお互様
婦人良藥中將湯の御蔭で
無事に過ごしました
尚本年も相變らず
中將湯を飲みませう』と
御婦人の年始には
此處にも其處にも
此挨拶

中將湯は子宮血の道より起る左の諸症を治す

- 子宮病
- 婦人神經
- 逆上頭痛
- 夜眠れず
- 膣加答兒
- 下腹痛み
- 産前産後
- 難産流産
- 月經滯り
- 血の道
- 氣ふさぎ
- 癇高ぶり
- 內膜炎
- こしけ
- 腰足冷込
- つはり
- 月經痛み
- 血ぶとり

定價

四日分	參拾五錢
一週間分	六拾錢
二週間分	壹圓拾錢
三週間分	壹圓六拾錢
五週間分	貳圓五拾錢
十週間分	四圓五拾錢
廿週間分	八圓五拾錢

本舖

東京市日本橋通四丁目
津村順天堂本店
振替口座六〇八番

大阪市堺筋大寶寺町
津村順天堂支店
振替口座四五六番

賣文社々長 堺利彦先生譯

バアナード ショウ作 人と超人

三六判美本
定價九十錢
郵税八錢

飜譯界、演劇界、出版界に多くの問題を提供せんとす

ショウ熱全盛の今彼の最大作の譯書出づ彼れの生命哲學彼の兩性觀彼の皮肉彼の諷刺彼の滑稽彼の冷嘲彼の熱罵悉く此の一篇の中に在り

譯書内容 本文の外、譯者の序、原著の序及原著通俗版の序、ショウの人物月旦、著作、革命家必携書及其座右銘、私が倫敦で見た人と超人（松居松葉等あり）

堺利彦先生著書數種

▲樂天四人 定價六十錢 郵税八錢

▲賣文集 定價壹圓 郵税八錢

▲ルソー自傳 赤裸の人 定價一圓 郵税八錢

▲社會主義倫理學 定價壹圓 郵税八錢

東京小石川區原町 振東京一五六八六 丙午出版社　東京小石川區原町 振東京一三五三番 雜聲堂

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

新年號

大正之日本

（第貳卷）（第壹號）

□毎月一回……一日發行□
○壹部十二錢……郵稅一錢○
▷半ヶ年分……六十五錢◁
▷壹ヶ年分……壹圓廿錢◁

見!!! 一大刷新ヲ加ヘタル新年號愈出デタリ眞面目ニ社會ノ諸問題ヲ解決スベキ責任ヲ負フテ現レタル本誌ノ内容ヲ見ヨ 見!!!

論壇

△憲政擁護の回顧……衆議院議員 小久保喜七
△加洲日本人問題（二）……法學博士 添田壽一
△政局の前途……衆議院議員 神谷忠雄
△加洲問題所見……衆議院議員 高野金重
△露國の海軍に就て（二）……海軍少佐 關和知
△英國備者擁護團……法學博士 鈴木乙兎
△東北地方の經濟開發策……法學博士 堀江歸一
△岡本東光翁と東洋策（二）……小林丑三郎
△正貨流出と恐慌來……葛生東介
△日本に於ける在野黨の立場……森川國南
……高田德治

縱橫錄

△夢中の感……六々山人
△政治は我物にせよ……茅原華山
△支那革命黨員に告ぐ……久留天豪
△第三貧民窟下谷龍泉寺町慘狀……呑海山人

▲天才？狂人？德富蘇峰に與ふる書……社說

史談

△奈破崙三世……生田目旭東
△來島恒喜小傳……來民生

▲修養▼

▲克己修養談（五）……東亞女學校長 田中舍身

殖民欄

△南洋諸島の實狀（四）……海軍少佐 下村忠助

▲明治大學雄辯部月旦……芙蓉子

郵券代用一割增
振替貯金口座
東京貳五九〇貳
振込ハ八番ニ限ル

東京市四谷區
申込所 大日本青年黨本部
坂町八十番地

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

茅原華山及同志の戰の雜誌

第三帝國

毎月一回十日發行 ● 一部郵税共金 **拾錢** 半年五十五錢 一ケ年分 **壹圓** ● 直接發賣所へ乞御注文

『第三帝國』とは何ぞ?

イブセンは第一帝國を基督敎思想の帝國となし、第二の帝國を希臘思想の帝國となし、第三帝國は兩者を併せたる靈肉一致の帝國也とせり。吾人は日本の覇者の帝國を第一帝國とし、官僚の帝國を第二帝國となし、人民の自覺して起ち立憲政治を行ふの帝國を第三帝國と名け、政治上にては此理想を實現せんとし人生上にはイブセンの思想を實現せんとするもの也。現代に慊らざる者、時代に不平なる者は、先づ本誌に來れ。

新年號要目(特に繰上げ元旦發行)

● 大なる終りと大なる始め　茅原華山
● 活人思想と殺人思想　茅原華山
● 日本人に人權なし　法學博士　江木衷
● 譯の分らぬ今の政治家　犬養毅
● 民權發達史　文學士　煙山專太郎
● 時代遲れの新聞雜誌　向軍治
● 新道德論(金子筑水、島村抱月、海野幸德)
● 三井岩崎暴富論　澤來太郎
● 我が民法上の婦人の權利　岩野清子
● 街上の女　西川文子

發賣所 東京巣鴨上駒込十九番 内外出版協會 電話下谷四二八番 振替東京三五五番

純正の主義侃諤の論麗彩の筆

世界之日本

每月一日發行
一部稅共十一錢

新年號要目

半ヶ年分六十錢
一年分一圓廿錢

地方生活狀態……伯爵　大隈重信

■排艶錄……鈴木孝七

■電燈問題側面觀……橋本徹馬

■政界十二名士の應對振り……記者

■福島事件の回顧……愛澤寧堅

我國の政治家諸君は社會政策の本義を知れりや……法學博士　鹽澤昌貞

■一年の計は元旦にあり……太陽生命保險專務　清水文之輔

■治安警察の改正に就て……代議士　松田源治

我黨の對議會策……立憲青年黨幹事長　橋本徹馬

■積極的十論……世界の日本記者　坂本正雄

■相續稅斷じて輕減すべからず……世界の日本記者　村島歸之

第二ルネサンスと第二維新……立憲青年黨幹事　長橋重兵衛

■利春さんの印象……日向きむ

■若き頰白（詩）……長橋大河

■稻門のお歷々（其二）……竹林隱士

■千鳥と云へる女に（歌）……蕭鷗二郎

世界の女傑

ワシントンの母　ヂャンダーク　靜御前
義俠が娘　エリサベス　カタリナ
武皇、閔妃　政子　奥村五百子

發行所　神田區仲猿樂町十七番　振替東京二六八六　世界之日本社

サンデー五周年記念出版

人物研究

眞に出版界空前の新記録!!

價 六百頁の大册僅に 五拾錢

郵税 並上製共金八錢 韓滿臺淸金拾錢

上製 總クロース天金箱入頗美本 金壹圓

奇拔なる解剖!!

口繪

▽首相としての大正政治家 ▽財界三元老 ▽山本內閣の閣僚 ▽外交界の人物 ▽政黨の領袖 ▽政界の人物

要目

▼日本富豪論 ▼首相としての五大政治家 ▼將來の首相的人物 ▼政黨五派の領袖 ▼山閣の閣僚

▽地方長官論 ▽鐵道海運五人男 ▽政界未成既成品 ▽官界の新舊人物 ▽五大銀行總裁論 ▽人物評論家月旦 ▽疑問の五妖星

▼花柳界の流行ッ妓 ▼國技館內赤裸の人 ▼樂界畫界の人物 ▼飛行界の人物 ▼陸軍の將星

歷代內閣の出色人物

實業界の新人物

口繪

▽官界の新人物 ▽舊人物 ▽實業界の人物 ▽鑛山界の人物 ▽學界の人物 ▽其他文士役者藝者等二十頁

要目

▼帝大總長論 ▼世界革命思想家 ▼五大富豪の色彩 ▼立憲同志會中の少壯幹部 ▼財界元老論

▽警察界の人物 ▽外交界の新人物 ▽民間五銀行主腦 ▽私立大學の人物 ▽貴族院の五人男 ▽現代文士分布觀 ▽杏林の逸材

▲海軍の雄才 ▼新政黨人物 ▼新聞界中心人物 ▼舊劇の若手五人 ▼問題の女噂の女

朝野千餘!!

の人物に對して赤裸の品隆月税を誡む

現代の名士名人を覗はんとする人々の好伴侶!!

東京京橋築地三の十五

ーサンデー社ー

振替東京二九〇〇番

唯一の婦人投書雜誌

女子文壇

第十巻新年號　一ヶ年分前金一圓七十錢

■婦人に對する新要求……相馬御風　若山牧水　河野桐谷

△をし繪……小林歌津

△聖歌……町田しづえ

△新年を迎ふる家……婦人記者

△郊外を讀む……山田たづる

△藝術座と大阪……秋田雨雀

△巷の空……室生犀生

●エレンケイの青年時代……宮田脩

●ダンヌンチオの藝術を憶ふ……赤木桁平

■本月號に限り

■方今女學生問題

△靜岡高女教諭……渡邊重作

△富山高女教諭……石原卽聞

△若山縣女教諭……岐部すみ子

△阿武實科高女教諭……米原鶴太

△城崎高女教諭……帆立正久

△長岡高女校長……橋本倉之助

△鹿兒島高女校長……青山廣

△長岡女師校長……山村彌久馬

△岩國高女校長……太田毅弼

△佐波高女校長……中田官次

△橋本實科高女教諭……淺田重敬

■定價十八錢

●晶子氏の新譯源氏を評す……日向きむ

●瀝青の塗られた顔……溝口白羊

△私の手紙……西崎花世

△京都より……岩井公平

△信濃國にて……星野紫風

△安倍能成氏の家……婦人記者

△青き羽……岩垣美技

△北の國……岸野柳子

■トルストイとツルゲーネフの交遊……森田草平譯

■新年の外篇……前田林外譯

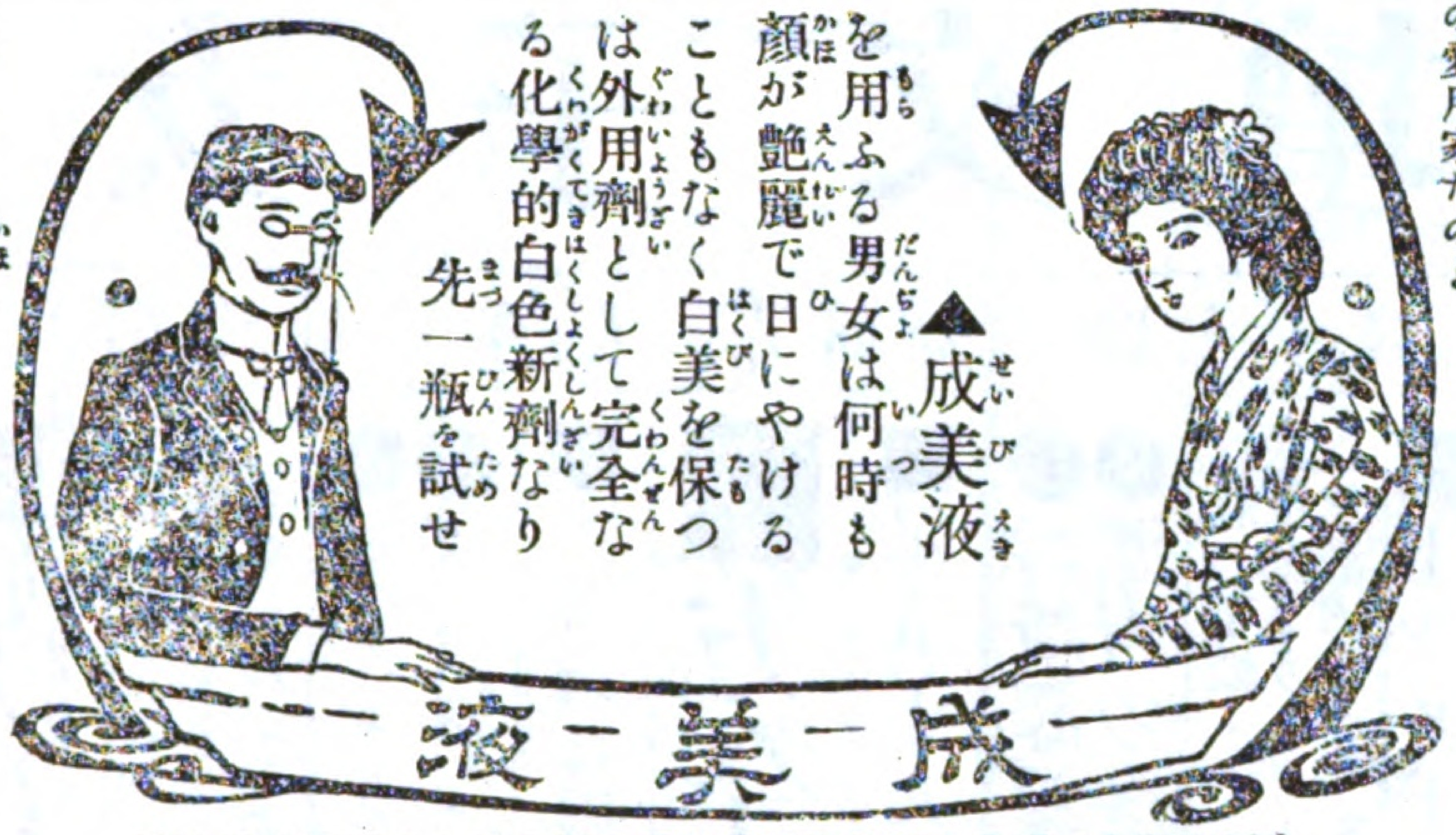
■新とは何ぞ……茅原華山

發行所　東京丸の内　婦人文藝社　(電話本局三二九番)　全國書店販賣

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

新らしき時代の要求は此粋薬

外出がちの私の顔がこんなに美くしいのは此の花粧水？成美液よ！兄さんもお父さんも内々の愛用家なのよ



▲成美液を用ふる男女は何時も顔が艶麗で日にやけることもなく白美を保つは外用剤として完全なる化學的白色新劑なり先一瓶を試せ

僕のにきび顔が斯く迄に綺麗になつたは矢張成美液の御蔭です、

定價小瓶十二錢◎中瓶廿五錢◎大五十錢◎特大壹圓◎送貨四錢

月やくを程よく下す藥

◎流經散（りうけいさん）

三日分十五錢◎七日分卅錢◎十五日分十六錢◎特製金壹圓送貨不要

此藥は月經を下すに胃腸を害する副作用なく安全に自由に流下致し升三四ケ月又は五六ケ月の閉止も特製を連服あれば必ず効があり升▲月經異狀の爲に**頭痛**のぼせ又は腰腹痛み子宮筋ばり等奇妙にきく毎月三日分服しおけば月經止る事なし

◎愉快なる理想藥◎

外用 **平和劑**

大器入特製金貳圓 中器入壹圓也小器入七十錢其半分入四十錢送料各二錢

進歩したる外國で**賞用**の粹藥に眞似て貴重なる原料を**配合**したる新藥なり付れば忽ちむづ**かゆ**くなる心地する創傷や濕疹に不思議にきく其他効用**多々**先づ用ひ見よ委細は言はず

◎毛の養生 **發毛液** 小瓶三十錢 中瓶五十錢

子宮サック 甲種金壹圓 乙種七十五錢

男女 下の病に關する治療藥何でもあり

說明書は切手三錢封送あれば送呈

◎東京神田區五軒町壹番地

寶順堂藥房

電話下谷壹參貳壹番◎振替東京四六七壹番

人の罪は、其の父母、兄弟、妻等にも及んだものである、であるから此の時代に於ては、武士の家庭のものは男女共に不義をしよう、不品行をしようと思ふてもソンナことをする間隙は殆んど無かつた。

◎武士の子弟が城下で不品行でもすれば、現はれると直ぐ罰せられたものだが、其の公に現はれる前に於ても、ソレが學友に知れると、學友が承知しなかつたものである。

◎ソレが女に對しては尙更ら嚴重で、平常物見遊山が一切禁せられて居る上に、若し不義なことでもあれば直ちに其の夫なり、若しくば其の父なりに、手打ちにされたものぢやソウである。されば當時の武士及武士の妻女の行儀と云ふものは實に立派なものであつた。

◎且つ長州は古くより、支那、朝鮮と日本との交通の關門たりし所で、支那、朝鮮の文化を先づ長州が受け入れてソレから日本全國へ受け賣りした所であるから自然何の科の學問に於ても長州は進歩して居た。智識の上から云つても他藩より進歩して居たが、精神上の修養に於ても他藩より進歩して居た。而してソレが女小供にも及んで居た。之れ長州が勤王の魁となり、六十餘州を敵として立ち得た所以であらう。

◎永井雅樂が切腹を仰付けられた時に、其の妻、單身刑場に乘り込みて、良人の首級を人の手に渡すは妻女の忍びざる所であると云つて自から介錯せんと請ふた雅樂許さゝりしが故に、其のまゝ默して止んだと云ふが其の雄々しさには時人感動したと云ふことである。此の夫人の如きは、長州武士の妻女の立派な方面の代表者と云ふべきであらう。

◎中山菊露と云ふ女劍士は、薙刀の名人であつて、又書道の達人である。女史は今より六十四年前萩の城下に近き一小村の一小寺に生れたのであるが、幼より家に男子なくして父の志を繼ぐ能はざるを慨し、女ながらも男子に負けぬ丈けのことをして見ようと決心し一心に薙刀を稽古して、十七八歲の時に漂然として家を出で全國武者修行の途に上つた。

◎女史の武者修行は一年や二年で了らなんだ今まで四

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

十有餘年、旅から旅へと歩き廻はつて居るのであるから、其の間の事、記すべきことが甚だ多い、ソレは他日別に書くことにしましよう。たゞ一つ、明治十五年に、雲州松江で自由黨の壯士に送つたと云ふ一詩を書いて置こう。

自由雄辯觸蠻爭、各物議論訴不平、堪想新聞才子筆、激頭裨益釣虚名

此の詩を送られて、壯士等は憤慨したが、女史の劔士たるを知れるものから、怖れて襲撃せなかつた、モウ一つ女史の近作を紹介しよう。

人生誰識幾酸辛。　六十年來誤此身。
浮世榮花非我事。　吟風弄月樂清貧。

女史は確かに生き殘れる、長州武士の家庭から出た婦人の氣象を代表せる一人物である。

◎當時の長州魂の純粹の代表者とも云ふべきは、男子では云ふまでもなく吉田松陰先生であるが、松陰先生の入獄中、自から米舂きまでして一家を支へられた先生の令妹兒玉よし子さんは、當年八十三歳で、尚ほ鑁鑠として居らるゝ。よし子さんは極めて嚴格で、而かも亦たハキ／＼した人でよし子さんを見れば松陰先生に面會したような心地がすると云ふことである。

兒玉よし子

◎長州に限らず、各藩共に武士の家庭は嚴格なものであつたが、幕末にはソレが何れも緩んで居た。其の責任の大半は幕府が負なければならぬのである。幕府は各藩の藩主及び武士をして、江戸で錢を費はし、一には各藩を弱め、二には江戸を富まそうとの政略から、江戸に女郎屋を拵へて、諸國の武士が江戸で遊びをしても之れを罰せなんだ、案の如く諸藩の武士は江戸で遊びを覺へダン／＼金を費ふものも出て

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

來たが、併し藩士は江戸にばり、居るワケでないから江戸では遊んでも、國へ歸ると知らぬ顔で質素に暮らして居る。之れに反して旗本は一端遊び僻がつくと、年が年中遊んで居る。斯くて旗下が日本中で一番不品行なものとなり、之れが又幕府滅亡の一大原因となつた。

◎右の如き原因から、幕末には武士の行儀が大分頽れて居た上に、幕末風雲急なるの際に蹶起したものは、多く身分賤しく、自然元氣はあつても行儀の紊れたものが多かつた。且つ紛亂で社會の制裁も緩んだから、品行の上から云へば其の時代の志士は何れも罪人であつた、當時の長州青年の代表者とも云ふべき高杉晋作は品行の點に於ても其の代表者であつた。

◎高杉の愛妾梅所は、下の關の藝者から妾になり、高杉の死後尼になつた女であるが、ナカ〱俠骨があつたソウな、モウ一人高杉の奇兵隊に面白い女が居た、彼女は本名高橋きくと云ふが、奇兵隊婆として知られて居る、此の女は袴をはき大小を横へ、戰爭なき時は炊事、洗濯を引受け、戰爭始まれば彈藥、辨當などの運搬に當つて居たが、高杉等が外人と戰ふた時の如き、此の婆さん外人の方へ尻を向て尻をまくり、『外國人尻食へ』と、彈丸雨飛の下で尻を叩いて大呼したと云ふことである。婆さんの豪膽は、長鍬で尻をまくつた豐公の豪膽よりも豪膽である。此の豪膽が其の時ドンナに奇兵隊青年の意氣を鼓舞したことであらうか。

◎ソレは兎に角、當時既に品行の大に紊れて居た青年が維新の革命に成功して、忽ち高位高官の身となつたことであるから、思はず氣高ぶり、意揚りて、其の品行は益々紊れた、愼み深き木戸松菊でさへも、其の初めて參議となつた時に、親しき友人に『何んだか百萬石のお大名になつた樣な氣がする』と書き送つたと云ふに見ても、皆が有頂天になつた有樣が想像せらる、

◎前號『鹿兒島の女』と、本號『長州の女』とで、武士道で養成された婦人及び武士の行儀が、維新後ドンナに崩れたかを示したが、尙ほ次號に『會津の女』のことを書いて、會津武士の家庭が御維新と共にドンナに變つたかを示そうと考へる。

本文を草するに就き、余は村田峯次郎先生、友人福田閑次郎氏等の談話に負ふ所が多い。記して其の厚意を深謝す。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

春（小説）

小口みち子

まあちやんがいゝ鹽梅に音なしく、お嫁さんになつて呉れたので、『あゝよかつた』と胸撫で下ろしたのは獨り、仕立屋の春さん計りではない。

と云ふのは、まあちやんと云ふ娘は、一通りでない駻馬のやうな繼阿母さんに仕へて、廿五の女盛りと云ふまで、それこそ日蔭に咲く花同樣な育てられ方をして來た氣の毒な身の上の人である。

品川の海へ死にゝ行つた事もあつた、築地の海岸からお巡りさんに連れられてしよぼ〳〵として歸つて來たこともあつた、阿父さんはまあちやんを密つと物蔭に呼び寄せて、

『死ぬんならどうか宅の疊の上で、病氣のために死んで呉れ、小林の家の名に係るやうな事だけは後生だからして呉れるなよ』

と優しく云ひ聞されると根が親孝行のまあちやんは、どんな事があつても二度と今度のやうなことはしまい、死ぬ程の辛抱も死なれぬつらさも、阿父さんのためにじつと堪えて居やうと思つた。

『もう二度とこんなことは致しません、阿父さんに御心配をかけてすみませんでした』

と泣いてお詫びをすると阿父さんは娘の脊中をなでながら、

『阿母さんにも心配をかけたのだから、ちやんときげんのよい時を見て、お詫びをして置くのだよ』と云ひ聞した。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

月に二度宛は芝居の總見に行く阿母さんはまあちやんに着せたいやうな、又まあちやんに〆めさせたいやうな、着物を着帯を〆めて金鎖を帯にからませたり、胸からかける時もある、指輪の三つも五つもはめ込んで帳場の車にしやんと乗つて、何處の何様の奥方かと一寸人を威すやうな様子をして、丸の内をさして行く時に、見すぼらしい双子の袷に黒繻子の山のきれた半巾帯を、貝の口にしめて格子戸の敷居に立つて默つて見送るまあちやんの様子と云つたらない、鬼界が島の俊寛の心持を小さくしたのが、此時のまあちやんの心であらふ、じつと頭を下げて梶棒が上り、やがて阿母さんの背ろ影が見へなくなる頃に、やつと持ち上げた顔を見ると、青ざめて目は一ぱいに血走つて居る、

一體まあちやんは美人系に入るべき顔立ちの娘ではあるが、長い間の精神作用があづかつてか、娘々した愛くるしさを何處に一點見出すことの出來ないやうな、無理の多い顔になつて終つて居る、殊に俗に云ふ三白眼と云ふあの凄い目が、何か一つ事件があるとまあちやんの心が全く靜まり返る迄は、いつ迄も〱血走つて居る、呪はれた娘といふ畫題のモデルに、誰れもしないのが不思議なやうな、仕立屋の春さんは世の中が面白くつて仕やうのない條件の一つに、此まあちやんの運命を數へ入れて、涙を流すこともあり又微笑んで見る事もある

世間ではまあちやん一家のことを色々といやな取沙汰をする、若い阿母さんの有りやうもない我儘を、じつと辛抱してたつた一人しかない自分の娘を下女同様な境界に置かせて投つて居る、阿父さんの意氣地のない影には、云ふに云はれぬ事情があつて……

まだすつと若いやつと廿四か五になつた計りの男鰥の阿父さんが、乳呑兒のまあちやんを抱へて、筆屋幸兵衞もどきに震へて居た所を、救ひ上げられた恩義のある故であるとも云ふし、夫婦になつて間もなく九死一生の大患に罹つた時に、此阿母さんが自分の操の切賣をして迄も……藥餌の料を貢いだのだとも、人は好き自由に噂

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

をする。

まあちやんはこんな空氣の蟠りの中で、云ひたいと思ふことの十に一つも口には出さず、したいと思ふ事の百に一つゝえしないが、たゞもう三百六十五日、かん〳〵と金槌をもつて釘の頭をうつやうに、自分で自分の頭を打ち續けにうつて居たのが、廿五の年の今日迄の一つの大きな仕事であつた。

此まあちやんにも戀があつた、妙なおかしな戀があつた。

まあちやんの家の眞向ふの仕立屋の春さんとこへ、子供の時からの友達ちで今は日本橋の紙問屋の店の者だと云ふ、結城紬の袷に鐵無地の羽織を引つかけた前垂掛けの、小柄で色は青い程白い、髮の毛の眞黒な唇の赤い、キリヽと引き締つた男であつた、頭の毛を七分三分に別けてブリアンチンの匂ひが咽ぶやうにする、時々春さんの家の客となつて居る所をまあちやんは見たことがあつた。

惡いのは仕立屋の春さんである、

『まあちやんお前が張物をして居たのを見てあの人が感心な娘だと云つて居たよ、あゝ云つた女は世帶持ちがよからふなんとお前のことを賞めて居つたよ』

と初めの中は何の氣なしに云つて居たが、まあちやんの樣子を見ると、つひ圖に乘つて止されなくなつて終つたので、

『あの人は俺と同じ年の廿八の八白でお前さんとは三つ違ひ、相性も馬鹿にいゝんだから、お嫁に行く氣がもしやあるんなら、俺が世話をして上げやうか』。

等と春さんは惡い〳〵とおもひながらとう〳〵云つてのけて終つた。

可愛いそうにまあちやんはいつ來るとも又來ないとも知れない人が、もしや仕立屋を訪ねはしまいかと、たゞ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

それ計りが氣になつて、髪結ひの所へも錢湯へも落々行つて居られないことになつて終つた。

そわ〳〵とした、擧動をしたり、影で密つと涙をふいて見たりして、果は横町のお藥師樣へお百度をふんで、此戀叶へさせ給へと願掛をした。

廻らぬ筆を無理に廻して、一心をこめて思の丈を書き並べて、指をついて血を出して血判を押して、男の勤先の店へと送つた。

何も知らない男はびつくりをして飛び上つた、なる程こんな人も見た事がないではない、仕立屋の店先きで影のうすい、見すぼらしい娘を見たが、こんな物を送られるやうな覺えは更々ない

と男は男で氣の毒な程しよげ返つた、仕立屋の春さんの所へは顏出しを止め、又手紙の返事等は思ひもよらぬ、ペンを耳に斜に挾んで、倉庫より倉庫へ問屋より卸屋へとたゞもう忙しいづめに暮して居た、一月の間に都合三通の手紙が屆いた。

お店の方へ訪ねて行くと云ふ三本目の手紙が屆いたのを受取つて、男は跳ね上る程に驚いてそして當惑をした。

いろ〳〵と思案をした末に、其夜更けてから敵地に深く乘り入るやうな心持ちで、なるだけ密つと自分の足音にも氣をつけて、いゝ鹽梅に靜穩な夜であつたので非常線にも引つ懸らずにやつと仕立屋の格子戸に手を掛けると急に男は氣が折れて、春さんの顏を見ると聲も出なくなつて終つた。

そんなことは知る筈もない春さんは澄した物で。

『ヨ大將――』なんて遶り構はず大きな聲を出す。

男は其大きな聲に又ヒヤリとしたがやつと何の事もなしに春さんを外へ引つ張り出す事が出來た。

誰れでも一寸云ひそうな徒らの戯談が飛んでもない事になつて、春さんも流石に一寸當惑をした、油斷のなら

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ぬ小娘を持つた世間の親心を思ひやつてつひホロリとなる。

お銚子が四本空いて鍋の中の物が煮詰まつて焦茶色になつたのを一つはさんで春さんは眞赤になつた顏を上げてかう云つた。

『まあい丶さ俺に任して置きな、噓から出た眞實と云ふ物もあるからどうだかと一寸思つて見たが、根つからとんと氣が進まないと云やそれ迄の物さ、どうにでもなる心配しなさんな』

と太つ腹な所を見せて友達を安心させて二人連れ立つて其家を出た。電車が靑い色をして走つて來たそれに二人は乗るか乗るまいか大分もめた末にとう〱乗つて行つて終つた。

*　*　*　*

其夜仕立屋の宅では短い春の夜の明け方近く迄戸を細目にあけて待つて居た春さんの母親は、夢に魘されて目をさました、すると近處のお邸の鷄が二聲續けて啼いた。思切つて戸を締めて又床に這入りながら、早くちやんと定まつた者を持たして安心をしたい等と思ひながら又寢入した。

*　*　*　*

まあちやんは今半分氣狂のやうになつて居る、いつになく阿母さんに楯ついたり、阿父さんが呼んでも返事をしなかつたり、丁度折も折、阿父さんの從妹に當るまあちやんの身に取つては、有力な一人の味方である小母さんがやつて來て、さる會社員の全くの系累のない獨り身の所へ緣付かせてはと云つて、當人の寫眞を持つて來てまあちやんに見せた、するとまあちやんは

『私はねちつと計りの月給を貰つて居る、けち臭い會社員の處なんか眞平です』

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

居る、けち臭い會社員の處なんか眞平です』

とキン〳〵透る聲を振り立てゝツンとする

驚かされたのは此小母さんである、いつの間にこんな憎らしい口をきくことを覺えたのかと呆氣に取られてまあちやんの顏を見つめて居たが、

『ねまあちやんお前さんは餘程どうかして居りますよ、何が氣に入らないでそんなにツン〳〵するのです、いやならいやでいゝけれども何か外にお前さんに考があるのですか、あるなら有るで何でもいゝから云つて御覽なさい、阿父さんや阿母さんともよく相談をして、まあちやんの身のためになりそうな事なら、どんな事でも叶へてあげますから、ね、ね、そんなに泣く物ではありません』

と宥めてやると、大泣きに泣いて居たまあちやんは、泣じやくりをしい〳〵お向ふの仕立屋の春さんのお友達の事を云ひ出した。

叔母さんはこれを聞いて二度びつくりをした、繁々とまあちやんのいぢらしい姿を見上げたり見降したりして、目をしばたゝきながら、

『阿父さんにも阿母さんにも内密にしてお置き、私が仕立屋の春さんによく相談をして、纏まる物なら纏めてあげます、けれどもね一途にそんなこと計り思ひつめる物ではありませんよ、ひよつとするとそれは春さんの戯談であるかも知れないのだからね、嘘になつたからと云つて、それで又死ぬ氣になんかなつたりしてはなりませんよ』

と口では云ふ物の、内々は困つた事だと叔母さんは思つた。

此娘の命一つは假初の人の一口でどうにでもなる、活かせる事も殺す事も何と云ふ自由な物であらうと、叔母さんは憐れで〳〵仕やうがなかつた。

お召の裾に縫模樣のある意氣な江戸褄の袘を加減しい〳〵春さんは鏝を灰の中へつゝ込んで

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

『まあちやんには得心の行くやうによく私からそう申しませう、元々私が惡るいんですから、その會社員の方の處へ氣が向くやうによくそう申しませう

と春さんは云つたので、叔母さんは『何分宜しく』と云つて笑ひながら歸つて行つた。

『ねまあちやん、お前さんがあの男の事をそう一途に思つてやつて呉れるとは、友達の私の身になつて御覽んそれは本當に嬉しいよ、私もねお前さんをあの男の所へ何ならお世話をしやうと思つてね、そうして當人にそう云つて見たらどうだいまあちやん、彼奴はそんなことを出任せに何處へ行つても云ふんだよ、何處の女にでも岡惚れをする惡るい癖があるんでねそれに彼奴はよく遊びに行くよ、此間も俺を誘ひ出しやがつて、まあちやんから行つた手紙があるだらふ、あれを自慢に相手の女にも見せるんだ、そうして獨りで惚けを云ふんだよ。見て居る俺だつて腹が立つじやないか』。

『彼奴がまあちやんに不人情なのが見つけ者だよ、まあちやんが思ふ程彼奴がもしかまあちやんのことを思つて居るとするさ、それこそ一時はよいやうな物の根が水性の男の事だから、いつまあちやんを見捨てないとは限らない、思つて御覽何が仕合せだか分りやしないよ、彼奴がまあちやんの事を譽めて居たとは云つたけれども、又世話をして上げやうかと俺もちつとそう思つたけれども、根が餘り感心しない奴の事だから彼奴のことを譽めてまあちやんに聞したことはありはしないじやないか。ねあんな奴のことなんか忘れてお終ひ、そうして叔母さんのお世話をして下さると云ふ人の處へちやんと音なしく形付くことにきめてお終ひ、そうするとまあちやんはこれからは屹度運が向いて萬事仕合せになつて來るよ、ねそうきめてお終ひいゝかい、いゝだらふそれが一等まあちやんに取つて仕合せなんだから……』

春さんは腋の下で冷汗を流し〳〵一生懸命に嘘と本言とを取雜せるに大骨を折つた、そうして心の中では『か

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

んにんしろよ今に何かで埋合せをするからな、ありもしない惡口を蔭で云はれて嘸嚔をして居やうが、これも災難だと思つて勘辨をするさ』と友達ちへは云譯をしぬいて居る。

『會社員の方はどうでも厭かい、全くの獨り者だと云ふじやないか、三十を越した男はちやんといろ〳〵な考が定まつて居るから、女房には柔しくつて親切だよ、早くお嫁さんになつて可愛らしい孫でも生んで、阿父さんを喜ばせてあげる氣にはなれないかい、そうするのが第一親孝行なんだから、行くことに決心をしてお終ひよ』

春さんに云はれて見ると直ぐと又其氣になつて、こゝで心機が廻轉して會社員の處へ緣付くことを承諾した。叔母さんが來て歸つて行く、兩親とも相談をする、一週間經ぬ間に結納も滯りなく取り替して一ケ月の中にはまあちやんが先方へ乘込む迄に話が纒つた。

支度のことでも又度々まあちやんがすね出した、こんな柄は厭だから阿母さんのあれを貰ひたいとやら、裾模樣も何も一つだつていりません等と思切つたキビ〳〵したことを云つてのける。母親は母親で厄病逃れのつもりだから、云ひたいだけのことを云はして默つて居る、まあちやんの此頃の勢ひときたら、それは大した有樣であつた。

ある日まあちやんは淺草へ用足しに行つて歸り途に大手町の電車停留場の所でハタと逢つたのが忘れもしない春さんの友達ちのあの方であつた。

『オヽ』と云つて男も一寸途惑ひをした。

まあちやんは默つてさしうつむいて終つた、此人を見るといぢらしさが先立つて來るので、男はなるだけ柔しく

『どちらへお出でになりました』

と聞いて見ると、女はたゞ『淺草』へと云つたゞけ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

やがて電車が出るので、男はそれに乗らふとしたが、あまりに憐れな姿をいとしがつて、つひ優しい言葉をかけた

『又お目にかゝりませうね御きげんよろしう』と云ひ捨てゝ行つて終つた。

まあちやんの心の中を今度はつむぢ風が恐ろしい唸りをあげて、烈しく〳〵吹いて〳〵吹きまくつた

『一生にたつた一度のお願ひ、今夜十時半に日比谷有樂門の際にてお待ち下さるやう』との速達がやがて男の手に落ちた

男はいろ〳〵と考えて見た結果、兎にも角にも逢つて見やう、逢つて見た上で何とかしやうもあらふと約束の時間に來て見ると女は電信柱に身をよせかけて立つて居た。

たゞ默つてお辭義をした計り、物凄い血相をして居るので、男は胸をついたが、仕方なしに公園の中へ足を運び入れた。

聞けばもう結婚の約定が出來て、あすにも嫁に行く身だと云ふ

自分の手紙を女郎に見せたと云ふ怨を散々に云はれて、餘りの意外に云譯もならず又何の事やら譯も分らなかつた。

十二分に遁腰になつて居る男は女の住居の佐久間町の方へと歩いて行つた、とう〳〵本郷町から電車に乘つて遁げるやうにして女と別れた。

乘つて終つてからも男は氣味惡く思つた、逢ひに等行つた事を後悔して、嘘にも優しらしい口一つきかれないのを窮屈に思つた、そうして又春さんに厄介をかけるやうなことが出來ねばよいが等と餘計な取越し苦勞迄した

翌日も手紙が來た、其翌々日も手紙が來た。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

男は思切つて自分のことなんか忘れてどうか仕合せな身の上の人となつて呉れるやうにと、賴むやうな手紙を書いて女の許へ送つてやつた、それ切り何の返事も來なくなつた。

有耶無耶の中に日は切迫して、まあちやんは何を思ふ事も出來なくなつて、夢とも現とも分らないでとう〳〵人妻となつて終つた。

赤い手柄の丸髷に結つて、吾妻下駄をガタ〳〵云はせて滞板をふむ癖は昔の儘、時々實家へ來る時の顔は晴々として美しかつた。

初めてまあやちんは、人間らしい、娘らしい、そうして人妻らしい處を一度に見せた、まるで北國の春のやうに、梅も櫻も李もみんな一時に滿開の形である。

いそ〳〵として來て、そうしていそ〳〵として歸つて行く

仕立屋の春さんはこんな樣子を垣間見て、絹糸の端をピンと高く爪先きで彈きながら、獨りにこ〳〵と笑つて居る。（完）

男子問題

婦人問題を云々する人はあるが、男子問題を論ずる人はない、私は寧ろ男子問題を論じなくてはならぬと思ふ。手近な話が婦人と男子と何れが虛榮心が盛なるかと云ふに、婦人よりも男子の方がはるかに虛榮心が甚しい。社會には其の妻君には相當の風彩をさせずに、自分一人は金鎖り、金時計を光らかし、仙臺平の袴や羽二重の羽織でシユ〳〵云はせて居る男子が多い。甚だしい男子になると家庭では米の一升買をして居る場合にもコスメチックで頭をひからかし、ゴム輪の車を走らして居る。ソレで居て婦人問題なぞの話が出ると婦人は虛榮心が強いの何のと云ふ。婦人は元より相當に飾らればならぬのであるから、それはみだしなみとしても至當である、男子こそ弊衣破帽で澤山である。（奈良林龜井戸病院長談）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

雨の日

座古愛子

雨のそぼ降る日でありました。關東から一人の友人が尋ねて參りました。十年餘り親しく交際はして居りますが、遠方なので、お目に懸かるのはこれで二度目であります。

痩軀長身、如何にも肺でも病みさうな方であります顔の特色は、眉と髯との濃い事で、眼は鳩のやうに優しさうで、然も時々烱々として鋭く光る事があります私の枕頭に座を占めて、物語られた事は恁うであります。

* * *

向だつたか、山路だつたかが、曾て「今日は實に基督教の危機だ。迎合主義をこれ事として、特色も何も磨滅して仕舞つた」とやらにいはれた事がありましたが、本當にさうですね。二三十年前の基督教など、生氣潑剌として、十分特色を發揮してゐたものですから、信者が皆生きてゐました。從つて社會の攻擊、迫害の焦點となつて、信者は皆命懸けでありました。

僕の村に十八人餘りの信者がありましたが、集會をすれば、會堂に瓦石を投げられる。その歸途には襲擊をされる。祭禮の時など、村の若者が多數を恃みに、御輿といふものを舁ぎ込んで、戸障子など破壞する。まだ开麼事はお安い方で、或る信者の如きは幾回も〳〵放火されて、遂に一家を灰燼に歸せられて仕舞つたものもありました。その中に在つて、斷乎として、人に從ふよりは神に從ひ、その信仰を毫末も屈げず、落とさなかつた信者諸氏の壯烈なる實に殉教者として嘆美するに足る價値があると思ひ

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ます。
丁度その時代でした。私の亡兄も信者となつた一人でありました。そして家族擧つて信者になつたものは、社會の攻擊、迫害丈ですが、亡兄なんか、家族の中で唯一人信者になつたのだものですから、社會の攻擊、迫害に加へて、家族の壓制の劇烈なるものがありまして、僕は當時まだ子供で、深い意味は判からぬながら、始終ハラ〳〵して居りました。

或る日の事でありました。什麽しても父や母やの意見丈では、亡兄が信仰を飜しませんので、叔父達を招いて、みんなして亡兄を責めたり、虐めたりした事がありました。何んでも夏の日の事のやうに覺えて居ります。明け放つた座敷に、みんなが車座になつて、賺したり、嚇したり、什麽か信仰を飜さしめやうと、一生懸命說諭した時の光景が、二十餘年後の今日、今猶ほ僕の目に見ゆるやうであります。

そして什麽口を酸くしての說諭も、意見も、亡兄の心を動かす事が出來ないものですから、トウ〳〵父が腹を立てまして、「この馬鹿野郎ッ、貴樣のやうな沒分曉はない。貴樣の爲に、隣近所からは仲間を外され、親戚では交際をして吳れない事になつて仕舞ふんだ。先祖に對して濟まないとは思はないか、大馬鹿者奴ッ。」と怒鳴り付けました。僕は自分が叱られでもするかのやうに思へて、物蔭に隱れて、胸を早鐘を撞くやうに躍らして居りました。怖い事だと慄へて居りました。

そしてそれが、どれ程ヒドイ責め方であつたかといふ事は、その日の夕方、亡兄が外へ出て暫らく歸らないので、若しや池――僕の家から七八町の、谷の奧に、靑い水を深く湛へた、凄いやうな池があるのです――に身を投げたのぢやあるまいかと、祖父がそれとなく探しに行つたのでも想像されませう。

けれど亡兄は、遂に回信しませんでした。その確信と勇氣とには、實に骨肉のものを讃めるやうですが、今更ながら推稱せずには居られません。

烏兎匆々、爾來二十餘年を經て、回顧しますれば

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

實に隔世の感がします。けれど亡兄の信仰の爲に屈せなかつたアノ志操は、憶ひ出す度に、一種のインスピレーションとなつて、僕の懦弱な心を刺激し、亢奮させます。そしてそれと共に、今日の迎合主義とやらの基督教を思ふて、無量の感に打たれざるを得ません。僕の友人の一人が、曾て恁ういふ事を申しました。「今日の信者は、昔時のパリサイ信徒だ。基督をして今日に生まれしめば、必ず十字架に磔けるであらう」と。僕も然う思ひます。僕も然う信じます。

* * * *

と語り終はつた時、友人の眼は、烱々として光つて居りました。そして間もなく、飄然として立ち去つて仕舞ひました。

私は友人との話しのその日の事を、忘れ得ません。そして時々その友人の話しを、頭の中で繰り返しては味はつてゐます。

今日も友人の來訪した日のやうに、雨が降つて居ります。隙き間を洩れて來る風の寒さに、病體を夜具に埋づめて、またその友人の話しを憶ひ出だして、玆に書き付けて見ました。（大正二年十二月一日稿）

一聲

基督に就て、多くの人々の直ちに連想するものは、十字架上の一言『我れ既に世に勝てり』のみである。シーザーに就て、多くの人々の直ちに連想するものも、其の刺さるゝ時に發した『ブルタス汝もか』の一言である。其他何人に就ても、年月は其の人の一生の間に發した言語を次第に消へ失せしめて、たつた一聲丈けしか遺さしめない。イヤ其の一聲でも遺る人はまだ幸福で、大多數は一聲さへも遺らぬのである。永遠に消へぬ一語、たゞ之れを吐きたいものです。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

趣味の女

玉露女

一針ぬつて歌おもひ
　一筋くけて詩をおもふ
母のみ膝をうごかして
　「あね樣作つて頂戴な。」
島田ちご髷片はづし
　着せる千代紙紫や
緋鹿の子たづな麻の葉しぼり
うなぢにたむけ待つ子等に
　燈あかき長つぼね
御殿女中の、ものがたり——。
秋の寢ざめの唇に
　乳よと泣くをなだめむと
歌「昔ツウレに王ありき
　ちかひはかへぬ此君に
妹は黄金の盃を
　遺してひとりみまかりぬ——。」
グレートヘンの節まねて
　流るゝ聲音銀の鈴——。
空澄む野邊の小春日に
　子等打連れてさまよへば
花よ蟲よの喜びを
　寫生の絹の筆にして
旅に出ます父が許
　「まさきく御座せ我等も……」と
添へ書の墨美しう——。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

夕まどゐの卓の上
スポンジケーク、ドナーツも
白エプロンの腕の冴
見よやかまどの火の花を
ネロが冷き手に燒きし
ローマの都忍ばるゝ
今宵も讀まむ子等眠せて
古へ人の夢のあと――。

破れし布の數々を
きれし毛糸のさま〴〵を
眞白き指にいそしめば
寒さしのぎの何や彼や
おく霜深き冬の朝
「奇妙頂來　かるかやは……」
ふるふ唄聲、鈴の音も
こほる彼れ等が着る情――。

明月の夜の淺酌に
微醺の夫が獨吟を
ヤ、オ、の掛聲玲瓏と
合はす小鼓冴え渡る
興闌の低唱に
爪彈細き忍びごま
化粧も匂ふ衿元に
翠垂たる鬢の艶――。

はる〴〵來ぬる老ひ人が
所望の薄茶うべなへば
松風かよふ四疊半
帛紗さばきも靜かにて
蕪村の幅の下陰に
かほりも高き白菊の
一輪ざしの花の色
何れゆかしき其風情
嫁女自慢の笑の波
額に浮ぶ長閑さや――。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

暗い室内より

三野村きよ

○どうしてまあそう青白い陰鬱な顔ばかりしていらつしやるでしようね。

△貴女にはそうみえますか。

○御體の弱いせいでしよが痛々しいやうですこと。

△永い間日光の目を見ない人のやうだと仰るんですね。

○全くです。貴女の華やかな晴々しい昔のお姿がまだ忘れられないから、一層そうおもふのかも知れません。少し確りして御覧なさい。

△貴女のやうな活々した方からはそう思召のも無理はありません、けれどね――まだ浮世を知らずに唄ひ舞つてた初心な時代に羽根をきられて、それからうまい工合に籠の中に入れられてしまつたのですから、たゞ細い格子の間から戀しい青天井を眺めてるより外ありません。

○籠の中ですつて……いまの若さで何んでその中にぢつとしていらしやるの、運命のまゝにお任かせに成るんですか、なせ御自身の力で籠をぬけやうとはなさらないの？

△一時はね貴女の御考へのやうに、何の計畫もなく踠いてみました。けれどもたゞ踠いたりあせつたりする事は、籠の周圍を固めさせる許りで何の効能も無い事を知りました、あせつた結果はたゞもう病みつかれた體が殘つた許りです。

○それぢや、此まゝ温順しく心にも無い生活を續けていらつしやるお積り？

△エ、。私の飼主はね、羽ばたきも出來ない弱々しい姿に一種の滿足を覺えて、それは美しい籠に入れて

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

大切に飾つて居ます。けれど此眼に幾らかの輝きを持つたり、延びてゆく羽根に艶々しい色が見えたりすると、直に鋭い鋏を持ち出して切りにかゝります。

○ではそれが恐さに——なんて意氣地の無い方なんでしよう、臆病なんです、勇氣が無いんです。鎖につながれてるのぢやなし、只一重の籠つきりぢやありませんか、血だらけに成てもとび出す丈の決心がなけりや。たとひつかれて其まゝ死んでしまつても、飽くまで努力しつゝ死んだといふ事が、どんなに貴女御自身の慰めに成るか知れません。

△——時期があるのですよ。いつか籠の方が破れて來るかもしれません、それを氣なが〱待つてるのです

○ア、貴女はいつ破れると思つていらつしやるの生甲斐の無い事ね、じれつたい——それだから踏みつけられるんですよ、あなたの體がそれ迄待たれるもんですか、また生きてたとしても其時はもう世の中から置いてけぼりされてしまふ時です。それとも誰かそとから打こわして呉れる人があるんですか?

△ありません。けれど貴女の仰る通りいまぬけ出したとしても、つかれた體に何が出來ましよう、飢へてまた籠に戻らせられる許りです。

○ア、可愛そうな方ね。なんて弱い人なんでしよう

△イヽエ、あなたのお考へ遊ばすほど可愛想な女ぢやありません、貴女のやうな自由な御身分で、また健康なお方には計り知られぬ苦しい道を歩いて來ましたそれだけまた寂しい靜かな樂しみも知つて居ります。私は沈默の中に或計畫を立てゝ居ります。私は此弱い體が日に〲恢復してゆくのも分つて居ます、第一に自分を信じなければならぬ事も、それだけの強さを養つてゆく事も知つて居ます。空つさわぎが何になりましよう、根強い深いものをぢり〲と育てゝからいくらでも明るい世界に出られます、其時はいつ來るか分りません、けれど決して遲いは思ひません。私は籠をぬける其朝迄やつぱりいまと同じ青白い陰鬱な顏してるに違ひありません。貴女は私の事より御自身の事をお考へなさい、私は決して貴女の御覽に成るやうな憐れな女ぢやありませんから

○貴女はまあ——

△最う何んにも仰つちやいけません、貴女は私の世界へ喰ひ込む權利は無いのです。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

思出の記（一）

西川文子

氣おくれ

田舍に生れた私は町に出ると、町端れの小商人の小供の氣の利いて居るのに比べて、小供心にも自分は田舍ものだと云ふ遠慮があつた。町の小學校に通ふやうになつてから、町の子に却つて自分が羨やましく思はれる所から、自分の立場もほゞ解つた。けれども私に何となくはにかむと云ふ性質のあるのは田舍に生れたといふ事が第一の要素だと思はれる。第二には父が無頓着で飾り氣のない、氣取らない人であつたが、母は何んでも他のものはよく見える性質の人であつた處から自分の家よりつまらない所の事でも、彼處はかうである、あゝであると云つて眞似られた、そんな感化を受けて何となく自分はつまらないものの樣に感せしめられたのである。

十三の小娘であつた私が西の京都に遊學する時、其所には勝れた美人ばかししか住まぬ者の樣に想像されて無上に氣後れがして耻かしかつた。つゝまやかな父に連れられて春の夕暮れ京についた私は、手下かばんを下げて七條から程近い兄の下宿まで歩いて行かれるのが耻かしくてたまらなかつた。行つて見ると盲目の按摩さんの二階を借りて居る兄は留守で、眞暗なやみの家であつた。それから八年の學校生活は私をして深い親しみを京に持たしめた、春秋の花もみぢはもとより、名所古跡をあさつたり、金閣寺銀閣寺の雪景色を探る爲めに京には珍らしい尺餘の雪を犯して吉田山を山越えにした事もあるし、名も知らぬ田舍道に迷つて門限に遲刻するのが心細く悲しかつたり、つゝじの盛

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

に芭蕉庵を尋ねたり、石川丈山の詩仙堂をとふて『渡らじなせみの小川の』扇子を貰つたことや、高臺寺の萩見、比叡に登つて四明ヶ岳から見下した琵琶湖の眺めや、愛宕山清瀧嵯峨御室北山大原、黒谷、東寺清水と遊んだ思ひ出は數限りもなくそれからそれへと忘れられぬ、記憶の追懷は面白く樂しく、まだ見ぬ先きの床しさとは又別樣の感がする。

私が精神的に社會を見た初めは、敎育の先生から岡山孤兒院の院長石井十次氏の話を聞かされてこんなえらい人はないと思つた、又一夜ふと洛陽敎會に鑛毒演說を聞きにいつて社會を知り、敎會を知つた、同時にまだ知らなかつた、クリスチャンなる人に尊敬の念を持つ樣になつたのも此の時であつた。敎會の中で嫉妬排擠からごた〳〵の起つた事さへ初心であつた私の心には、普通の社會とは別な尊いもの丶樣に寫つて居た、父母が熱心な眞宗の信者であつた爲めに、私も根本的の信仰は佛敎でありながら基督敎が何となくよい樣におもはれたのも、他のものがよく見えると云ふ母の遺傳であらうと思はれる。

私の十四の時の寫眞です　文子

墓場で祈つた石井さんの話に聞き惚れた私は、孤兒院と云ふものに多大の尊敬を持つ樣になり、卒業して歸つてから國の育兒院に手傳いにいつた今から思へば滑稽な樣であるが、救世軍や、方々で失敗した社會を食いつめて、落ちて來た事務員にも非常な敬意を拂つて居た。孤兒の大きくなつた婦人が事務員になつて居る、それ等の人々も自分等より勝れた人だと思つた。牧師上りの敎師だとか支部長とか云つた樣な

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

人には、學校時代に校長先生に最敬禮ばかりして容易にものをも云はなかつた程隔を覺へた。其人々は今も往來して居るが、たえずいろ〳〵の事を賴んで來る人や、さもない人でも其人としては獨立して其當時よりはるかに進歩して居るに拘はらず私の目には全く別樣の人の樣に寫つて居る。然し今のが眞價であつて、うら若い心に寫りしは數倍の買かぶりであつたと思はれる。

孤兒院の事で思ひ出すのは、幼少な時から親に可愛がられて佛飯の殘りで育てられた私は、麥飯が食べられなかつた、それに孤兒院ではひどひ〳〵麥飯でとても食べられない、だと云つて孤兒の食べるものが食べられぬと云ふ事はないと思つて、二日も三日も斷食して、裁縫をしたり、クリスマスのダンスを敎へたりして居た、麥飯だから食べないのだらうと院長は心配して吳れるのを無理に遠慮して、イ、エ〳〵と云つて居たものゝ、こんな悲しくてお母さんの戀しかつた事はなかつた。私が初めて東京に來た時の心持ちはそれは〳〵謹嚴なものであつた。東京と云ふ所には曾つて敎科書や雜誌や、著書で知つた先輩名士やチヤキチヤキの學者しか住み得られぬものゝ樣に思はれて、東京に來ると云ふ事それ自身が非常な名譽であると共にこの上なく氣の張つたものであつた。田舍ものに見えぬ爲めに、スタイル丈けでもハイカラにして行かうか金緣眼鏡でも懸けて行かうかと云ふ樣な幼稚な事さへ考へて見たけれども、元來氣取る事の出來ぬ自分には到底ソンな事は出來なかつた。新橋に下りるのは餘りに晴がましく潜越な事の樣に思はれて、品川で下りる事に遠慮した。

三田四國町の今は戸板女學校になつて居る家が、孤兒院の支部であつた。そこに落つくべく車を驅つた途中品川附近のきたない町や、普通の勞働者の荷を運んだりして居るのを見て、東京も別に變つた所ではないらしい、並々の人も居ると大きに安心した。こゝにも滑稽な思出がある、母が心盡しの草餠をこしらへて三つの折に入れて二つはお土產に一つは汽車の中の辨當

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

にと持たして呉れた、娘心の耻かしくて汽車の中でも一日何もやう食べないで、着いてからも田舎のものをと、きまり惡くて出す事も出來ず、そのまゝ二三日床の間において腐らして了つて、そのまゝ早稻田の方へ引越したのであるが、さぞ後で物笑になつたことだらうと思ひ出すと今でもをかしくてたまらぬ。此の支部でも女學校へ通つて居る孤兒がハイカラにして居るので、田舎では女學校の先生をして居た自分ではあるが、眞赤にははにかんで居た。

田舎に居た時崇拜して居た、雜誌の發行所や、先輩を訪問につれられても、頰から火の出るほど眞赤にほてらして、暑くもないのに汗ビッショリになつて居た、今でもよく其當時の私を見た人から本當に田舎の娘さんらしい初心な人だつた、鐵鉋襦袢の袖を着たりして、その癖一癖あり相な確かりした所のある人だと思つたなど、笑はれるのだか、褒められるのだか分らぬ樣な事を云はれて耻かしい事だらけです。處がその先生だと思つて居た、容易にものも云ひえない位に思つた人の中には、隨分妙な人もありました、人格や學識はあつてもまだ一人では食べられぬ青い人や、全く社會の落伍者でよく知つて見ると實にふき出す樣な人もあつたのです、尤も中にはすぐれた識見文才ある偉い人もあるにはありましたが、それ等の人は却つて物も云へない樣な人ではなく優しい謙遜な人で、ソンなに買被つて崇拜して貰つては困ると云はれたのです、さもない人でも古參の人を私は法外に崇拜してかゝつた爲めにだん／＼自分が後の雁が先きに失敬する樣な感じを持つのが常でした。

『來て見ればさほどでもなし富士の山』

見盡して見れば、大した事はなくてもまだ見ぬ中は床しいものです、私は田舎に居る時、東京に居る友人や、兄や姉がズン／＼進んで、自分一人を取殘して行く樣な氣がしてたまらなかつた、京の晝寢に田舎の勉强と云ふ氣分に壓迫されて居た、今でもロンドンや巴里等に遊んで居る人は別種の人の樣におもはれる、大した事のない事を自覺して來る爲めにでも、私は今に彼方へ一度は遊に行て來たいものだと切に思て居ます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

御婚禮の御化粧

遠藤はつ子

美顔術の方は十年近くもいたして居ますが、御婚禮の御化粧、お召もの丶着せつけと申す事は、却つてお客様から押つけられてする樣になつた樣な次第で御座います。所が結句此頃ではその方が忙がしくなりまして、冬は店の方はソツチのけで御婚禮にかゝり切りの樣な始末で御座います。

さて御婚禮時の樣な厚化粧は普通濃い白粉をベタ〳〵ぬればよいと思召す方もありますが、其方〳〵の御顔のきぢによつていたさればなりません、例令ばお色の黒い方ならば最初は水のやうなのを三四回もぬつて、だん〳〵白くして五六回にもつけなければならず、白粉の類も五種も六種もあるのです。黒い肌の上に急に厚化粧をいたしますと、處々はげが出來て春の雪どけ道の樣に落つきませんが、かうして致しましたお化粧は、二三日は決してはげませぬ。

○着つけの事ども

昨年は諒闇中で御遠慮でしたが本年は御廻禮にお困りになる方も御座いましやうから、三枚重れの着やうについて少しお話申しましやう。さて三枚重れを着くづれせぬ樣に召しますのには、長襦袢さへ氣をつけて着くづれせぬ樣にすれば、決して上のお召の着くづれるものではありません。だから長襦袢の上には紐をしつかりして伊達卷を其の上に卷くので御座います。(序ですから襦袢の襟の事をお話します、襟に奉書を入れますと、自然に襟がぬけて三角に形よくなります、入れ方は背筋から五分ほどよけてあつく入れます。首の太い方ほど襟巾を廣くするのです、太いからと云つて狹くする方がありますがそれはかつかうが惡う御座います。

お召の召方には別段變りはありませんが、お紐にお氣をつけになりませぬと着くづれがいたします、お紐はメリンスが最もよろしいので、チリメンなどはほんの飾だと思つて頂かればなりませぬ、又普通の結び方で御座いますと、一度結んだのを二度目結ぶ間にゆるんで了ひますから、一度結んだのを、すぐその手でねぢちがへてはさんでおきます、これならば一日たつても決してくづれませぬ、その上かさがはらなくてお格好も至極よろしいのです。

腰紐をいたしましたら上げを出す丈け程よく出しまして、其の上を細紐でしわをのばして伊達卷をまきつけ下地をチヤンとしておきます、前後の皺は背筋をおさへて居て、脇下へ三ッ折に寄せてのばすので御座います。

○帯の事

前帯の間には皆さん心をお入れになりますが、後の腰にお入れになる事は御存じない樣です、後に厚紙を入れますと、お尻の大きい方でも小さく見えまするし、座つても帯がまくし上がると云ふ事なく、おたいこにしましても、立矢の字にいたしましてもかつかうのよろしい事ッたら御座いません。

堅い帯を獨りでしめますには、普通カケを捨

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

てゝおいて〳〵ろからゆるむのですが、反對の側の方へはさみながら〳〵めるとどんな堅い帶でもお獨りで〳〵られます。又おたいこの上の二枚がはなれ〳〵にならずキチントそろへますにはしよひ上げで二枚目を下の方からたくし上て、上の方から下向きにグツトうつむけてするのです、善い帶のおたいこの二枚キチンとそろつたのは全くよいもので御座います。又ゆるまない樣にするには帶止をかけの角にあてゝするのです帶の前を十文字にしたり、帶止をいがめてするのは花柳界に限る事で御座います。

○羽織と着物と襦袢の袖

羽織と着物と襦袢の袖を合せますには、羽織を召してから脇下をグツト引出すので御庭います、又襦袢の袖巾を着物より五分ひかへて身巾で五分もち出して、付も五分ひかへるので御座います、さうすれば自然に合ひますが、少しの事は、只今申ます樣に若樣でも合せられます。着物の仕立も普通に裁ちましたのを後で二分五厘つまみますと、自然に襟がぬけて格好がよく取れます、殊にお太りになつた方には之れが必要で御座います。

(遠藤女史は實地に就て親切に御研究になつて居られますから、かいたもので御覧になつてお分りにならぬ方でも、親しく實物を以て敎へて頂きますと一々成ぼど〳〵とうなづかれる事ばかりで獨特の御技量か伺はれます(記者)。

新刊紹介

▲男女の生活(海野幸德氏著)

著者海野氏は、性慾問題の研究、人種改善學の研究には、造詣頗ぶる深き人である。私は此の書を熟讀して、私共は性慾に就て無智なるが爲めに、從來ドレ丈け過ちをして來て居るか、又世の先覺たる人々が性慾に就て無智なるが爲めにドレ丈け世の靑年男女に迷惑をかけ、無理を強いて來て居たかを發見し、大きに得る所がありました。世の靑年男女も此の書を讀めば得る所が多いでしやう、世の父母たる人々も、此書を讀めば、其の子弟を導く上に得る所が多いであらうと考へる。私は著者の勞を多謝し、且つ此書の一讀を何人にもおすゝめしたいと思ふて居る一人である。(一圓二十錢東京本郷蓬町十二大盛堂)

投稿募集

(〆切毎月十日)

■和歌(一人五首以内) 小口みち子選

■俳句(一人五句以内) すみ子選

○賞 △和歌、俳句一等五十錢、二等三十錢、三等本誌二冊

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

▲在彼南、伊藤美壽代女史より　拜啓

仕り候、貴社倍御淸榮欣賀此事に存候、貴誌初號より拜見、諸姉の御奮勵ぶり感謝に不堪候、左に男の不品行なる原因に付き一寸所見申上候

男の不品行なる原因は女が女の天職を自覺せぬより來るので、自覺した女であつたなら、何んなに不品行の良人でも、必らず品行方正に導き、圓滿なる家庭を造ることが出來ます、これは私が今日まで妻となつて十餘年の經驗から得た結論であります。

女の天職は何であるかと云ふに、それは愛に生きるのです、假令ば野の百合の咲き香へる心を以て心となすのです、溫い、やさしい、情あるけだかき氣品は、これ野に咲ける美しい白百合にも比すべきではありませぬか。

そして其自然に咲ける心を以て心とせば一片の虛榮の雲におうわるゝこともないのですから、嫉妬なんと云ふさもしい心も出ません、それに一片の花瓣にだも生物の僞らざる意味が存するのですから、堅忍、努力、健康等の意義が自覺されて來るのですから、自分は何時も、淸い熱烈なる信仰に生きることになつて來ます。

されば良人に接して、何時も不快の感を與さしめるようなことはなくなります。だから如何に不品行であつたにしても、僞らざる、わが淸らかなる其愛情には何時の時にか感化せられずに居るものではありませんそれに女は身體の健康に最も注意を拂はねばなりません、そして女は兎角感情に走り易いのだから常識の修養に努めなければならぬ。新聞雜誌なぞも撰んで讀まねばなりません。何卒御示敎の程願ひ上候。(十一月廿二日發)

▲在朝鮮平壤、高橋直巖氏より　貴誌

每號拜讀するので愛姉樣方の盛なる抱負と御活動振りは一々承知致し心から感謝して居ります、何卒不屈勇猛の大精神を以て前進成さる樣、神が我姉妹達に授け給ふた特種の職分を充分實現する樣に只管御盡力のほど祈上ます次第であります。

朝鮮婦人の狀態に就て少し御邪魔して見たいと思ふた事もありましたが御宣言の中には直接には男子の助力を仰かないとの事もありますから出娑婆つては却て御迷惑となるかと差し控へて居りました、處がおはがきにて何か書き送れとの仰せを承りましたので、其れで少し書いて見る氣になりました

併し朝鮮の姉妹達の事は有り體にいへば私は未だ書く丈の材料を纒める程に硏究して居りません、私の目には鮮婦人は兩極端の狀態に居る樣に見えます、一方には內房奧深き處に閉居して家人の外は顏を見せない習慣があります其れかと思へば他の一方には頭に重荷を載せて市日などには男子にも劣らぬ活動をなすものがあります、一方には容易に口を開かず、沈默の中に貞操をヂット守つて居るものもありますが、併し又男子と喧嘩して大立廻りをなし、扨ては男子の胸倉を締めてキゥ〳〵云はせ得る底の女丈夫を見受くること珍らしくありません、此の極端の狀態は貴賤の階級と老若の區別にも因る事でありませうが、何にせよ內地の姉妹達に較ぶれば兩極端の性格を帶びて居ります樣です、夫れで女子敎育の質が擧がり敎化普く及んだ日には比較的早く覺醒するかとも存じます、一體朝鮮人は移り易き性格あります樣ですから善き模範を示して悉がり眞面目に指導の道を盡さば反て早く新らしくなるもの多い樣に想はれます。

五日前の事でした、私は妻と共に一鮮人の家庭を訪問致しました(妻を伴ふて訪問すれば先方の妻女にも逢はるゝから)當地では中產の商賈人で主人は六十格好の福々した快活の人であり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ます、裏手に紅黄色々の菊を作りて居つた、温突に私共を案内して四方山の話して居りますにも主婦と嫁さんは次の間に熨斗かけて手離さず、主婦の方は仕事しながら話を交へて居つたが嫁さん(三十歳位)は始終一言も發せず只私共の話をニコ／＼して聽いて居りました、其中五歳になるといふ男の子供入り來り日本風にお辭儀して夫れより千字文を出して讀んで見せたが感心に誤りなく讀むのを見て驚きました、此の小兒が十五歳になれば日本に遣つて學校に入れる積りだと主人はいつて居りました、一方には成人になつても諺文を讀めないものが男子にも女子にも少からずありますが又一方には五歳にして千字文を讀むものもあります

鮮人の家庭と婦人の事をかくには餘程研究した後でなくては叶ひません

序に一事殊に申たい事があります、此は私が恒に憤慨して居る事の一であります、朝鮮に居る官吏實業家を問はず、正統の妻子を内地に於て朝鮮に第二の妻か妾かを大きい顔して蓄へて居る事であります、俗に「韓妻」と呼んで居られます大抵下女あがりか酌婦若しくば藝娼妓の成りあがりものですから品性からいへば鼻向のならぬ者許りであります故國に空閨を守つていらつしやる奥樣方は知らずに居るものもありませうし又知つて居つても朝鮮は寒ひから住み慣れた内地に居つて主人よりの仕送りで坐食する方が氣樂だなどゝ濟ましていらつしやる方もありましよふ、何れにしても捨ておき難き變狀を公々然と演じて居ります、之れで此朝鮮の敎化が出來るといふなら敎化せられた朝鮮人も難有はありません

今度は此位の處で止めておきます

▲鳥林あぐり女史より　昨夜西洋婦人にまれかれて茶話會に、久しぶりで出ました。いつもかんじる事ですが、日本人の會は丸で死んでゐる樣です、大に輪廓を打破しましよう……會も相談會や研究會でない時はおもしろく陽氣にしたいものです（十二月五日）

▲SI女史より　皆樣御變り御座いませんですか、私はびん／＼ですよ、雜誌や何んかでさぞ／＼御多忙で御座いませうれ、御安じ申して居ります、奥樣と打とけた御話を致したいと九月以來望んで居りますが。奥樣の御多忙と私も何の彼のと用事の爲め其機を得ないのですが、今度の玉露女史の是？非？を讀んで、私自分を書かれたやうな氣分になつて一字一句胸を踊らせながら拜見しました、そしてあの中途から私の……にそつくりで御座います他人迄では御座いませんよ。何れ御目に懸りました節私の愚痴として御聞きを願ひます、せめて奥樣にでも聞いて頂いたらと思ひます。（十二月四日）

▲瀬沼夏葉女史より　お寒くなりました、お變りはありませんか、私は先月から少し體の工合がわるくまだやすんで居りますので、來月の原稿はドウしても間に合ひませんからどうぞ何とかお繰合せをつけて置て下さい、あともう二度で完結になりますのです、小口さんにもおあひの節よろしく（十二月八日、中野にて）

▲藤井夕子女史より　永々病氣にかゝりましてみのものK樣の宅に養生に行つてゐましたのです、みのもの秋も暮れて行きます、赤いかへでが散りゆきまして……冬――冬――冬又やみ上りのうら若い少女にも淋しい悲しい冬が參りました（大阪、十一月卅日）

▲正親町ゆみ子女史より　毎月／＼御發行の『新眞婦人』御送り下さいまして有難く拜見いたして居ります。先月かの演說會にも參りました。いつもの雜誌の御論議うれしく拜見して居りました。いろ／＼御話をもうかゞいたいと思つて居りますが、何にしろいそがはしい身殘念と思ふて居ます、本日より熱海へ參ります、先は御禮まで（麴町、十二月九日）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

新刊紹介

▲**新思想論**（大住嘯風氏著）此の書は過去一二年間に亘りて、著者が萬朝報其他の紙上で公表した論文を集めたもので、文數五十、紙數三百八十七頁。色々な問題を論じて、ドノ方面に於ても著者の造詣の尋常ならざることを示されて居る。婦人に關するものとしては『婦人問題の將來』『生活難と産兒防過』及び『佛陀を圍繞せる女性』の三論文がある佛陀を圍繞せる女性』の中に

釋迦は決して女性に對して冷酷であつたのでない、唯肉慾に對して頗る嚴肅な思想を有してゐたのである。印度の如き熱帶の地方では人間が頗る早熟する爲め、若し之に宗教的制裁を下さなかつたならば、終には收拾すべからざる狀態に陷るのは知れ切つたことである云々

と書いてある。著者の才筆は何れの文をも面白く讀ませる（定價一圓二十錢、東京本郷區本郷四丁目陸東出版社）

▲**落栗**（大住嘯風氏著）　之れは同じ著者の美文集で『涅槃の夕』『初夏の愁』『熱殺閑梨』『立春』『京の夏』『百萬塔』『春淺き』『京の三月』『堀』『春闇』『第一印象』『納骨』の十二篇が掲載されて居る。論文家にして、又美文家なる著者の才の多方面なるに驚かざるを得ぬ（六十錢東京市本郷區本郷四丁目陸東出版社）

▲**山中鹿之助**（笹川臨風氏著）『うきことの猶此の上に積れかし限りある身の力ためさん』と云ふ一首の歌で、私は雲州の古英雄を偲ぶのみでありましたが、今度笹川先生の御手に成りし此書を讀みて、詳しく彼の偉を知ることが出來ました。序文の中に『鹿之助に關する群書は大概涉獵したと云はれてあるに見ても、此の書の間合せものでないことが分る。文章の妙は、申今更すまいでもありません。卷頭に、鹿之助の直筆、鹿之助の冑及び其の附屬品、鹿之助冑裡の護符等の寫眞版が載つて居ます中々こつたものです（定價一圓十錢、東京市本郷區元町二の三十中央書院）

▲**エルジエ・リントネル**（カリン・ミヒアエリス作、佐藤綠葉氏譯）此の書は曩きに小野文學士によりて、譯され、以文館より出版されて、忽ち七版を重ねた『離婚せる四十女の思ひ切た告白』と同じ著者の書を、佐藤綠葉氏が譯せられたものである。中年婦人の心理を解剖して實に精細を極めて居る。私は譯者より一部を送られて熱讀し、大に益を得ました。『思ひ切つた告白』の續篇と見てよろしい書です。終りに譯者の才筆に敬服したと云ふことを申添へて置きたい（定價八十錢、東京神田松下町十以文館）

▲**人物研究**（サンデー臨時増刊）現代人物一千有餘名を評論したもので、政治家、實業家、教育家、宗教家、文士、美術家、軍人、醫者飛行界の人物、花柳界の流行ッ妓等各方面の人物を集め、大體に於て遺漏なく其の評論も至極公平である。現代の人物を知らんとする人々には好個の參考書である。紙數五百餘頁、定價五十錢（東京京橋區築地三の十五サンデー社）

▲**性的特徵**（ハヴエロックエリス著 小倉清三郎氏譯）
丁未出版社發行

▲**人生教育エミール**（ルッソー原著 三浦關造氏譯）
隆文館發行

▲**婦人新道德論**（西川文子著）
中央書院發行

右次號で細評します

寄贈雜誌

△六合雜誌△大正之日本△家庭講話△第三帝國△ウオールド△讀書の友△新公論△新婦人△婦人畫報△慈善△新修養△宗教之日本△婦人評論△サンデー△世界之日本△向上△自由評論△修養世界△婦人之友△心の花△家庭之園藝△九惠△大正婦女社會△警世△新佛教△眞人△新世紀△道△青年日本△經世雜誌△近代思想△假面△清平調△正教時報△スクラップ△世界雜誌△婦女新聞△白毫△新聞の新聞△村落通信△家庭タイムス△女子文壇△鑛業及び工夫の友

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

歌

小口みち子選

一等　京都市室町御池上ル、伊藤方　月小路爛子

囚人もふと手の爪をかみやめて檻にかなしく物おもふ夜

二等　東京市四谷區東信濃町四、村野方　近藤なほ子

彼の文の君にとゞきし頃なりき打臥すばかり胸のなりしは

三等　京都市西高瀬川五條下ル、戸崎方　下條むら子

なつかしき君が願ひぞ悲しけれ姉とよばれてあはれ老いゆく

選外佳作

豐後　春川雪子

知らぬ人と月の四條の橋なかに遠音のつゞみほめて別れぬ

追はれたる心となりてしみ〴〵とふりかへり見ぬ秋の森より

三味ひきて指の痛みをやや覺ゆ日のくれ方に君來給ひぬ

京都　福田ゆきよし

枯れ草の大野の果に日は入りて旅する人のうすれ行くかな

アカシヤの花に明るき河岸の家に髪すく乙女も戀しかりけり

東京　片桐くみ子

無雜作に髪を覆ひし手拭の、影に子の笑む小春日の椽

枇杷の花咲いて居るなり鞦韆の片繩切れし庭のあなたに

大阪　串本貞子

讀みあきし文かたわらにかきやりてうす茶味はふ雪の夕暮

あづま屋の窓押しひらき鶯の聲聞きながら薄茶をそのむ

青梅　松丸稲子

庖厨へ藪鶯はたづれ來ぬ雨となるらし初冬の晝

東京　矢萩露子

蒼白き瓦斯の光に紅絹を縫ひ行く針の奇しききらめき

新らしき曙光に浮む白樺の、氣高く淸き我が心かな

相模　小川碧水

ひと日だに君を思はぬ日はなけれ君とよぶ日の來ぬが悲しき

東京　正親町みゆ子

秋ばれや草繪の如き効外の白きつゝぢに咲けるコスモス

水底にめしいし魚ににて咲ける草あらむかな秋しづかなり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

橘の匂ひめぐれる山麓の小さき村は月夜となりぬ

東京　近藤　なほ子

病める子の愛にせめられ其妻のきげんとりつゝいぢらしき人

賤が家の下女をなすとて永き日を都みやこをこがれにしかな

歌なりきなやみつかれじ此胸を人に告げしは歌なりしかな

いとけなき子にいさゝかを誇りしが我身を覆ふ黒雲となる

京都　下條　むら子

白雪のふる夜しづかに鐘きけば世になき戀し母をぞおもふ

大阪　藤井　夕子

ふる里は淋しき國よ灰色に淡雪のふる悲しき國よ

君よ〳〵忘れ給ふなあの宵のくらき濱邊と潮の音と

若き頃戀になやみしある家の灯等見つめて物おもふかな

京都　月小路　瀾子

夢のごと遠きにおきてながめてなば、美しう見て若かりし日よ

松影の寢もの語りをなかり〳〵にきゝける海の音をいかにおもふ

京都　藤澤　露子

緋鹿の子の帶はほどけてほの紅く暗に殘りしその香りかな

京都　林　美彌子

祇園町月夜となればいとほしき妓にさへ秋の涙光れり

君を思ひおもひ亂れて河岸へ來ぬこの夜も霧になげく水鳥

そことなく音じめやさしき三味の音の流れし河岸の淡き夕月

京都　月岡　美代子

粉雪ふる磧に立てば夕霧をふるはし千どりかすかに啼けり

やゝ青き月の光に身を侵し君を思へば千どり啼きぬる

選　者

人形の春着ぬふ夜を雪ふりぬ、鐘をきくとて我又病みぬ

今月は投稿者諸氏の御勉強によりて面白く選をいたしました。

京都の林美彌子樣に、

貴女のお歌は大體に非常によく整つて居りまして、いつも杜撰な歌ばかりよむ私等とても及ばないと感心して居ります、然しながらどうも一體に力が弱い、いつでも月夜と霧と水色の中にとろけ込んでゐらつしやる貴女の才を明るみの強い太陽の光りに曝してはどんな物かと感じるのです一そうの御勉強を期待いたします。

正親町ゆみ子樣に、

眞面目にいつでもかゝさず御投稿いつも新らしい方面へ〳〵と御進みのあとを心強く拜見して居ります、いつか折を見て御會見いたしたいとも存じて居ります。

近藤なほ子樣に、

着眼點が非常に鋭い、かくし切れぬ才氣の鋒先きがちら〳〵して居ります、貴女の前途を祝福しますなるべく多く人の作をよんで御勉強なして下さい。

藤井夕子樣にも同じやうなことを申して置きます。

小川碧水樣に、

添作をしろと仰しやるよりも尙ほもつと多くの人の歌をよんで頂きたい、自ら啓發され自ら進む所が其の月次の三十一文字を異つた新らしい歌をよむ人の取るべき道で御座います。

みち子

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

俳句

すみ子選

一號

朝風呂の煙靜かなり松の内　　麻布宮村町二十二　片桐くみ子

二號

外科室の南障子や冬の蠅　　徳島縣麻植郡川田　丸山富美

三號

月高く冬田に風もなかりけり　　京都市祇園町花見小路西入黒田ふじ方　福田つぼみ

選外佳作

蓬萊に家風を語る姑かな　　吉波艮子
旭子の海をはなれぬ初霞　　同
初夢のよ過ぎて暫し包みけり　　同
水郷や朝靄深く冬に入る　　藤浪露子
初芝居茶屋の男の機嫌哉　　同
見る程の影新しき初日かな　　吉原とみ子
夜は神の杜より明けぬ初鴉　　同
冬枯や長者が門の大榎　　福田つぼみ
石工の枯草を焚く日向かな　　同
初鶏や酒藏つゞく灘の町　　春川ゆき子
初日の出金蛇の如き里の川　　松丸稻子
門松や奥はさゞめく女聲　　澤村園子
蠟燭の灯に音のある寒さかな　　賀田桐江
破れ月や寒月もれて佛達　　福田ゆきよし

選者

物賣のはや遙かなり雪の町はづれ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

蛙聲會

十一月二十五日　第二回茶話會を芝公園高橋夫人の御宅で開く筈であつた處、急に同氏が御病氣で發熱された爲めに、つひ近所のみち子さんの御宅に御厄介を持ち込む事になりました、此の日の宿題として。アンナカレニナの合評をしてその筆記を本誌に掲載する筈であつたが、それぞれ忙がしい職務を持つて居るものが、その合間〳〵に見るのでは、一週間や十日ではとても見られる樣なものではない、全譯で上下を通じて千五百頁もあらうと云ふのですもの、おまけに一生懸命になつて讀んで居られた、伊藤朝子さんは御病氣で御出席がなく、かうしたあらゆるものに目を通して居れるあぐりさんが珍らしくまだ讀まないと仰しやるので、みち子さんや私がお話の筋書を話す位に過ぎなかつたのです、私は新年にゆつくりアンナカレニナと共に此度出版された、ショウのカンディダを始め新刊ものを味はつて見やうと樂しんで居ます。兎に角近頃は以前の樣な簡單な抄譯でない、全譯が出版さるゝ樣になつて、綿密な原書を見る樣な感じを與へさせれるのは、原書を容易に讀むことの出來ぬものには、何とも云ふに云はれぬうれしさであると感謝いたします、その點から近來飜譯ものに對し誤譯指摘が切りと流行する樣であるが、私は此種のもの〻續々發刊されるのを深く〳〵感謝するのです。何としても小說は議論の先驅者であつて、とても論文では及びもつかぬ大膽な新らしい說が小說により文藝によつて紹介されるのです。今日の新らしい女などに驚いて居る人々は、少しくこんなものを讀まれたら何でもないありふれた事だと云ふ事が分るのです、

もーお正月の來た樣なお餠の磯邊燒御馳走やいろ〳〵とおやどもとへお世話をかけた上に、二次會まで開いて夜を更かしました。彼方の別室には御良人のお客樣も澤山御見えになりましたのに。さて此の會の名は蛙聲會と命名いたしました。

新眞婦人定價表（毎月一回 一日發行）

一冊	（郵税共）	拾壹錢
半年分	（郵税共前金）	六拾錢
一年分	（郵税共前金）	壹圓拾錢

御注意　●注文は總て前金の事前金盡くれば必ず「盡」の一字を朱にて帶封に認む直に送金なき時は發送を停止す　●郵券代用は壹錢又は五厘切手にて一割增

◎新眞婦人廣告料　特別面三十圓、一等廿五圓、二等二十圓、普通面十五圓、木版を要するものは別に實費を申受くべし

大正二年十二月廿八日印刷納本
大正三年一月一日發行

發行兼編輯人及印刷人　本郷區駒込林町二〇六番地　西川文子

印刷所　本所區番場町四番地　凸版印刷株式會社分工場

東京市本郷區駒込林町二百六番地　新眞婦人社
郵便振替貯金口座東京二四五五六

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

年賀名刺交換

（イロハ順）

淺草區並木町十八　伊藤朝子
本郷區本郷四丁目五十三　井上すみ子
本郷區本郷四丁目五十二　岩崎愛子
芝區佐久間町壹丁目一　池内澄子
麹町區霞ヶ関外務省構内　埴原粂喜代

本郷駒込林町二〇六　西川文子
柳子
露子
本郷森川町五十三　尾崎恒子
京橋區木挽町六加藤病院　加藤崎子
神田表神保町三　吉川たみ子

神田三河町九　田口隆子
小石川區小日向水道町還國寺　但馬つね子
芝區芝公園十四ノ十四　高橋達子
深川區富川町　高野むら子
芝區芝公園十五ノ十一　小口みち子
神戸市兵庫大井通二ノ四　座古愛子

四ッ谷愛住町　玉露女史
青山北町一ノ十八　三の村清子
赤坂田町七丁目壹番地　平澤福子
赤坂仲ノ町一　樋口緑子
府下田端八百　日向きむ子
島林あぐり
府下仲野町千八百三十　瀬沼夏葉

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

季節向き化粧品陳列

御婚禮御化粧法

右御化粧法の義は當館々主多年の經驗により御素顔の美を損ぜぬやう又お召物との配合光りの接觸等入念なる注意と熟練せる技術とによりて御用命に應じ申すべく陸續御申込み相なりたく伏して希望いたし候

尚ほ季節向き御化粧品種々取り揃へ御注文に相叶ひ候やう陳列致しあり候外個人的にして一つの美術とも申すべき化粧法に關し當館多年の經驗により御相談の御相手たるべき事を確信致し居り候

東京市京橋區
竹川町一二
理容館

電話新橋一五一九
振替口座東京一四一〇〇

御化粧法の御相談相手

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

腦病精神病専門

東京巣鴨町四丁目巣鴨電車終點先二丁

巣鴨腦病院

（長電話番町三〇九八）

院長 醫學博士 石川貞吉

入院隨意

美顔療法

●にきび●そばかす●あざ●ほくろ●いぼ●顔のしみ●火傷創跡等容易に除去し得る特効薬幷に新研究の療法を教示す●希望者は郵券三錢を添へ状況詳細記載の上御申越を乞ふ

東京市麹町區元園町一丁目七番地

美容研究所

東京市京橋區南鍋町壹丁目四番地

ラヂウム專門療院

電話新橋參〇壹六番

院長 ドクトル從五位 渡邊鼎

月やく

月やくとまり御心配の御方又月やくの爲に御なんぎなさる御方は三錢切手封入御手紙下さい、からだに害なくよく下りる良藥秘密に御知らせ致します

東京市小石川區大原町一六

栖原のぶ子

肉體色白新劑

本劑は近時佛國パリス貴紳淑女間に最新流行の發明劑にして生來色黒き男女にても平素之を用ゆれば本劑の主成分たる皮膚漂白性作用により漸次肉體**白色**となり肌を滑にし皺を伸しあれ及吹出物を治し**艶美**の容貌となる卓効を有す世上種々雜多の色白藥を用ひて奏効なき人は速に本劑特製分貳劑を試よ偉大なる奇効完全に顯る價並製壹劑壹圓廿錢特別製壹劑貳圓貳拾錢

色白飲藥

英國輸入の全身清血劑にして飲んで體內の惡血毒血惡液を體外に排泄し血液を清淨にし完全に肉色を**白色艶美**ならしむる奇効顯著藥なり價壹劑貳圓九拾錢參劑七圓九拾錢五劑拾貳圓五拾錢色白新劑と內外双方併用せば偉大の奏効迅速に顯る着金卽刻送藥す

腋臭必治劑

本劑は腋臭症に對し最近の學理と實驗とにより研究發見せられたる**斯病唯一**の理想的卓効新藥にて本劑の作用により其病源汗腺を根底より變質せしむるを以て如何なる難症腋臭も完全に治癒す故に他藥にて全治せざる患者は早く試み病原を去り**苦惱を脫**せよ難重症は特別製を用ゆれば完全著効を奏す藥價輕症用壹圓八拾錢重症用貳圓八拾錢慢性症用五圓八拾錢頑固症用特別製分拾圓八拾錢着金小包密送す

最新發見奇藥

陰萎病 特効新藥

本劑（藥名トニチン）は最近發見に係る陰萎病**唯一**の特効新劑にして其主治適應症を擧れば種々の原因より來る**陰萎病**。精神性陰萎。貧血性陰萎。衰弱性陰萎。根氣衰弱。神經衰弱症。早漏。萎縮。元氣衰弱。腎虛冷症等に卓越絶倫なる奇効あり荷も精力を旺盛にし生殖機能强健ならしめ人生の快樂を保全せんと欲する人は早く試よ的確偉大なる特効顯著なり藥價試用分壹劑貳圓輕症用五劑九圓五拾錢重症用八劑拾四圓五拾錢慢性症用拾參劑貳拾參圓也着金卽刻小包密送す

月やく通經劑

本劑は胃腸を害せず子宮を痛めず月經とまりを迅速に**通經**す長き滯り及び血塊には特製分を用ひよ極安全に快通**流經**す且つ月經不順より起る子宮病血の道を治癒し惡血古血を一掃す患者は早く試み卓絶偉大なる**特効**を知られよ近時無効類似偽藥多し御注意を乞ふ價は壹劑七拾錢貳劑壹圓廿錢參劑壹圓七拾錢特別製分貳圓卅錢頑固症用特製分四圓卅錢郵券代用貳割增し

婦人病の福音

本劑は最新の學理と多年の實驗とにより發見せられたる婦人病藥唯一の靈劑なるを以て頑固なる月經閉止及血塊抔と稱へ永年經水なきを快通流下するは勿論月經不調に基因して續發する逆上頭痛眩暈腰或は子宮に痛ある人腹子宮部の癪攣等に用ひ偉大なる卓効顯著なり早く試よ

（奇効顯著藥）

毛生新藥

本劑（藥名ヘアークロース）は多年研究實驗の結果發見したる**毛髮速生藥**なり卽ち男女共禿頭病の人各種の病氣にて脫毛する人頭髮及はゑぎわの薄き人陰部毛なき人まゆげ口ひげの薄き人其他總て毛のあるべき所に毛なき人用ゆれば毛髮着々と**速生**する**特効**あり本劑は世にありふれたる種々雜多の毛はへ藥と其効大に異なるに付幸に玉瓦混同視することなく速に試み卓絶偉大なる奇効を知られよ價小瓶壹圓廿錢中瓶二圓卅錢大瓶五圓卅錢特別製分拾圓卅錢着金卽刻送藥す郵券代用必ず二割增しの事

やせる藥

壹劑參圓廿錢貳劑六圓二十錢特別製九圓拾錢

本劑（藥名ヨードチリン錠）は學理實驗に徵したる唯一の**瘦身劑**にて血ぶとり。酒ぶとり。あぶらぶとり。顏赤くほてり。のぼせ症。卒中症等總て肥滿質多血質脂肪過多質の人用ゆれば無害にして著しく體量を減じ脂肪を適度に脫し**美容健康**を保ち程よくやせる特効藥なり故に彼の見苦しくふとりたる諸君は速に本劑を用ひ其峻烈偉大なる卓効を知られよ

以上七藥專賣

東京市神田區五軒町十九番地

日新館藥房

電話下谷五百四十六番
振替東京一九二四六番

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

胃腸病特効藥

ストマック散

主治効能

◎胃弱◎溜飲◎胃加答兒◎消化不良
◎胃痛◎呑酸◎胃痙攣◎嘔心嘔吐
◎胸腹痛◎腸加答兒◎疝氣

其他胃弱より來る諸症及び下痢症に用ひて大に効あり

東京市神田末廣町「電車通」
諸大家處方調劑所 理生堂藥局
藥劑師 小暮誠一郎
藥劑師 伏見常吉
電話下谷四三五〇

理學博士 鶴田賢次先生御證明

不思議のちゝ瓶

健兒ヲ發育セント欲スル方ハ
此ノ保溫哺乳器ヲ御用ヒアレ

定價一具 金壹圓八拾錢

送料
內地 拾五錢
臺樺 貳拾五錢
滿韓 參拾五錢

發賣元
東京市淺草區南元町廿五番地
在原留三郎
電話下谷七百六拾番 振替東京四一六〇番

●ぢ疾

●いぼぢ●だつこう●きれぢ●あなぢ でおこまりの方は無きか？

●ぢは四季折り／＼に起りて大便の通時毎に苦痛を感じ誠に恥しき病にして遂に蓮池の客となる難症を自宅自療の秘法説明（治療要鑑）を世の病苦に泣て療法に迷ひつゝある患者に分與す患者は自己の症狀を記し郵便切手廿八錢封入申込あれ必治自療法を回答可致候▲東京市下谷區上野町一丁目十八番地生司堂

●腦神經衰弱症に／て おこまりの方は無きか？

●頭重く 記憶力 理解力 減衰 首手足だるく 夜間不眠 遺精夢精

社

●身體貧血▲心氣亢進●ねあせ▲精神疲勞●腦の過用者▲失戀の悲哀▲商業の失敗▲顔體蒼白色▲快味感覺神經早漏萎縮症●青春病に起原する生殖器病諸症にて强壮ならず不快の人は切手廿八錢封入申込次第主治藥と合せて自宅治療法説示回答す▲東京下谷上野廣小路松坂屋裏通り生司堂

醫學士堤宗卿卓生先効證明實用新案特許良劑

不思議膏

ながれずまくれず體裁よく何度でも用ゐられてどこでも痛む處へはればすぐにきく

●諸君の家庭には一日も不思議膏を缺きたまふべからず思はぬ時に思はぬ重寶となるべし

「フシギ膏」は實にこれ何の病にも「フシギ効」也一度用ゐた人は必すその功能におどろく

効能

●れうまち●骨の痛●かたのこり●齒のいたみ●うちみ●神經痛●胃の痛●せんき●寸白●痔●そこまめ●すはりだこ●ひようそう●しやく●よう●てう●やけど●くつずれ●づつう●乳のこり●のぼせ●ろいれき●耳の痛み●其他いたむ處一切

定價

二枚入金五錢

四枚入金十錢

十二枚箱入金三十錢

●本舗 東京市日本橋區若松町十七番地 具足堂 電話浪花四八六〇 振替東京一二三五

○賣捌當市各藥店及全國各藥店

月經帯の良否鑑別法

月經帯の最良品は如何なる點にありや、曰く完全なる吸收具を備ふるにあり。吸收具を備へざる月經帯は、『越中褌』や『猿股』と撰ぶ所なし。何ぞ高金を出して買ふの要あらんや。是れ歐米婦人が『サニタリー、タヲル』と云ふ吸收具を常に手放さゞる所以也。夫れ消毒綿と雖も挿入防經の大害あるは醫家の均しく宣言する所。而して月經帯の種類多き中にて最完全なる吸收具を備ふるは獨り藤川學士の發明の『安全帯』あるのみ。以て本品が如何に衛生を重んずる貴婦人令嬢方に歡迎せらるゝかを知るべし。

本舗（東京下谷區池ノ端七軒町一 振替東京一六九二〇番）安全堂
本舗（大阪西區江戸堀下通三ノ三九 振替大阪一一四六一番）洋々堂分店
（右兩本舗主人 小原與三郎敬白）

定價（安全帯一筋、甲壹圓貳拾錢、乙八拾錢、並五拾錢（一筋にて永年使へ升）安全衣一打金四拾錢●送料、一組（帯衣共）金八錢、一組毎に貳錢増し、代金引替小包料廿貳錢、外國、臺樺、淸、鮮、金卅錢

ね小便　近小べん

治効確認禮狀感謝狀日々來着奏効豫期以上直接來院すれば施藥規定もあり遠地又事情にて來院出來ざる方に新式ね小便根本療法書無代呈す藥品部宛ハガキ申込め

東京本所區中ノ郷元町
電話本所三三四二番
東京新療院

腦病精神病專門

東京田端 電話下谷二二〇二番
東京腦病院
院長 後藤省吾
醫學士 黑澤良臣

妊婦産婦 診察及懇切に預る
神田助産所
神田産婆看護婦會本部
東京市神田區裏猿樂町六番地
電話本局一五三七番

看護婦御入用ニ應ズ
看護婦及見習募集

産婆看護婦派出
生徒養成

東京市芝區三田四國町二番地五號

東京衛生團産婆看護婦部

電話芝八百六十四番

部長 産婆看護婦 山下まつ子

府下荏原郡大崎町大字桐ヶ谷三百五十九番地

產婆部 大崎支局

皮膚病一切
たむしの妙藥

タムシン

東京市京橋區入舟町四丁目
本舖 橋本進世堂

斯くしてリウマチスは全治せり

▽井筒屋藥の奇効……

●●●●●●●リウマチスの恐ろべきは一般世人の知る所である決して不治症ではない、奇効卓絶の靈藥井筒屋藥を用ひたならば、決して不治を喞つ必要はないのである、永年醫藥を用ひて効果無かつたものが我家傳の靈劑井筒屋藥を用ひて全癒した實例は枚擧に遑はない、世の所謂新藥とか新發見奇藥とか、稱するものに惑さるゝなく、速かに我が井筒屋藥、外用劑を試用して一刻も早く其痛苦を去らよれ

藥價
五日分 五十五錢
壹週分 七十五錢
貳週分 一圓四十錢
(送料四錢八厘)

東京淺草仲見世天勇横町
井筒屋油店
電話……下谷三一一五番
振替口座一九六五二番

不思議によくきくしもやけの妙藥

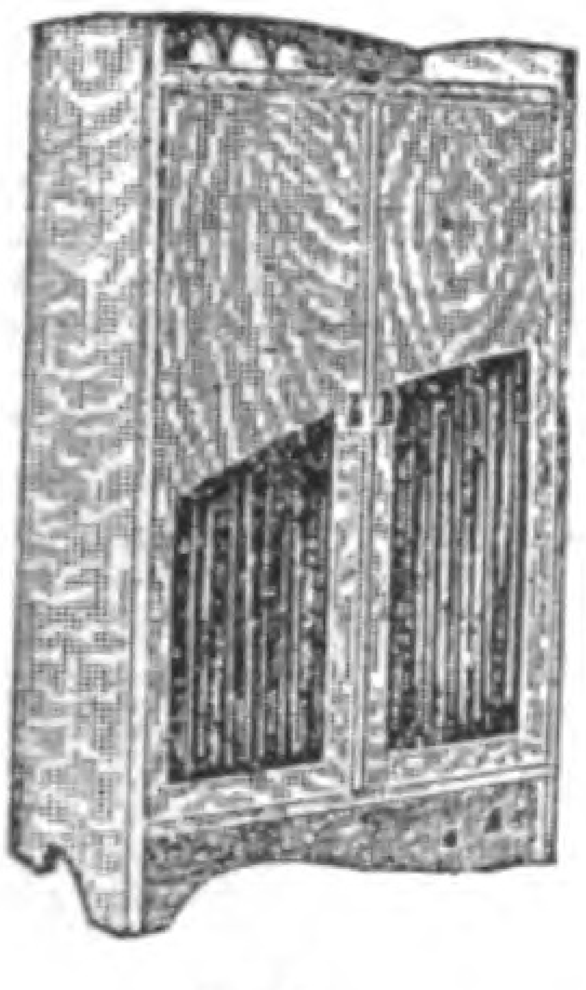
しもやけ根切藥

定價 廿錢 十錢 五錢

◎各藥店にあります
猿馬印に御注意あれ

本舖 東京上槇町 支那安東縣 安川晃榮堂

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



御婦人向文房具

文房具にも亦御婦人向あり　伊東屋の階上には御婦人向文房具が澤山陳列有之候　御高覧お待受申上候

御婦人向文房具のうちに檜材に白ラックを施し優雅清洒を極めたる机と本箱と本置臺などあり殊に御高覧お待受申上候

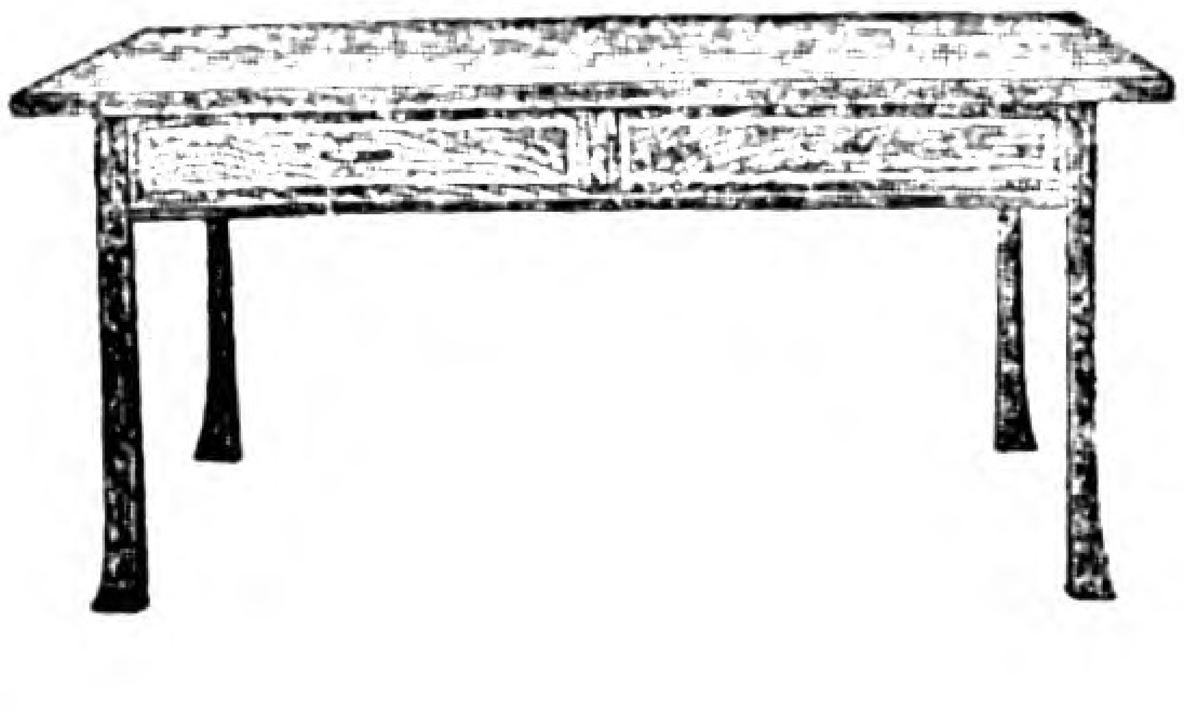
机	高一尺貳寸	間口貳尺四寸	奥行一尺三寸	金五圓也
本箱	高二尺六寸	間口一尺五寸	奥行九寸	金九圓五十錢
本置臺	高一尺三寸	間口一尺四寸	奥行八寸	金三圓五十錢

荷造費　机と本箱八十錢　本置臺三十錢

東京銀座

伊東屋

電話新橋 一三二九
一七九六
振替口座 五一一一



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ニッポノホン
御年玉用蓄音器
廿二號金二十二圓、十七號金十七圓
ニッケル喇叭附改良の蓄音器にして本社工場に於て苦心研究の結果最低廉價販賣を試みる事を得たるなり、器械堅牢音聲美妙眞に格好の御進物用なり
新音譜賣出し
定價
赤紙印 二圓
青同 一圓五十錢
黒同 一圓五十錢
赤紙印 一七九 一七九五 忠臣藏三段目、逆櫓 （義太夫） 源太夫
赤紙印 一八七八 一八七九 佐倉宗五郎子別れ（上下） （浪花節） 吉田小奈良
黒紙印 二四一八 二四一九 曾我兄弟 （同） 中川伊勢吉
赤紙印 四六 四七 壷坂、朝顔日記 （同） 京山小圓
赤紙印 五二 五三 兒島高德（上下） （同）同 竹本昇太夫
青紙印 二三三七 二三三八 野崎村（上下） （義太夫）
黒紙印 二三五二 二三五三 あほだら經出鱈目鳥盡し （あほだら經） 梅坊主
黒紙印 二三八二 二三八三 戸山學校 Valse he C nrt de Luxembong Two Step-Hiawasha
青紙印 二四〇八 二四〇九 三曲萬歳 荒川芳春 玉子屋千代鶴 ヤンレ節 播州皿屋敷 同千代鶴、トン八
神奈川縣川崎町
日本蓄音器商會
電話川崎四九番

大正二年四月二十六日第三種郵便物認可　大正三年一月一日發行（毎月一回一日發行）
大正二年十二月二十八日印刷納本

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA